

## IV 調査のまとめ

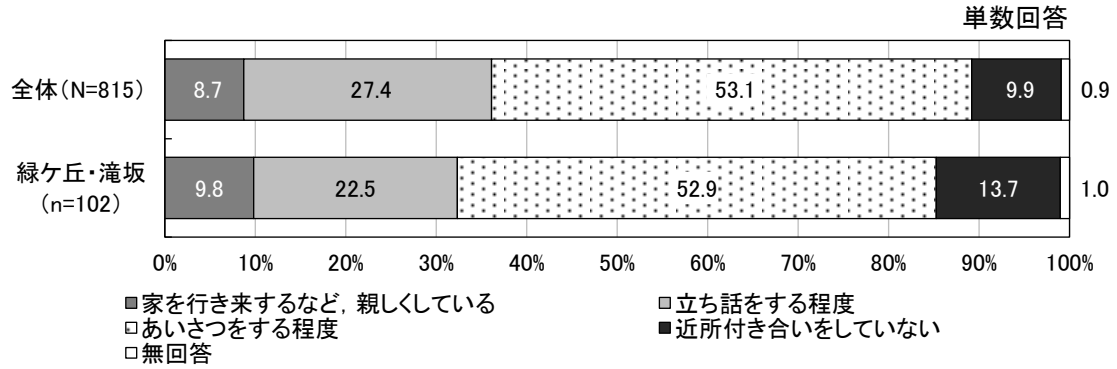


# 第1章 地域別のまとめ

## 1 緑ヶ丘・滝坂小学校地域

### (1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：まわりの人から手助けしてほしいこと・手助けできること

各項目1位に網掛	安否確認の声かけ	ちよみ出した買物	食事や掃除・洗濯の手伝い	手助けの送迎や外出の	子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時避難の手助け	具合などがよくない時に連絡するに
① 手助けしてほしいか								
全体 (N=815)	51.0	13.6	8.5	15.8	16.0	28.1	70.2	51.9
緑ヶ丘・滝坂 (n=102)	49.0	8.8	6.9	13.7	18.6	30.4	76.5	52.9
② 手助けできること								
全体 (N=815)	76.9	44.2	16.4	26.4	22.5	48.7	76.9	72.1
緑ヶ丘・滝坂 (n=102)	77.5	43.1	19.6	26.5	25.5	46.1	76.5	70.6

■市民（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組状況・今後の取組意向

各項目1位に網掛	Aする活動、子育て世帯・子どもやPTA支援	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	伝統や文化を伝える活動	お祭りや運動会などの地域のレク	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	全地域の環境美化、環境保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
①取組状況										
全体 (N=815)	11.5	3.9	3.4	8.6	6.1	6.1	6.6	10.1	19.9	
緑ヶ丘・滝坂 (n=102)	9.8	2.0	2.0	5.9	5.9	2.9	7.8	4.9	19.6	
②今後の取組意向										
全体 (N=815)	15.1	21.2	19.8	24.0	22.5	35.6	31.0	13.3	38.9	
緑ヶ丘・滝坂 (n=102)	20.6	23.5	23.5	24.5	23.5	38.2	32.4	11.8	41.2	

■市民（18歳以上）：地域の暮らしの中での不安や課題

各項目1位に網掛		子育て、 子どもの教育	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	近所付き合いのこと、 友だち	と防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	（機関）が 相談できる人 が少ないこと	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	(N=815)	14.4	22.9	13.5	32.0	14.5	13.1	19.4	4.9	14.1	30.1	6.1	1.1	25.6	6.5
緑ヶ丘・滝坂	(n=102)	16.7	18.6	10.8	27.5	14.7	12.7	16.7	3.9	10.8	22.5	9.8	2.0	25.5	6.9

(2) アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経済的な理由で困った経験は、「困ったことはない」が最も多いものの、『困ったことがある』（「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」の合計）が3割を超えている。（問18）</li> <li>● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「市民への福祉意識の啓発（19.6%）」が全体（12.1%）に比べやや多くなっている。（問33）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 介護の状況は、「介護を受けていない」が9割となっている。（問7）</li> <li>● 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（43.5%）」が最も多くなっている。（問8）</li> <li>● 困ったときの身近な相談相手（人・機関）は、「同居の家族（70.1%）」が全体（64.9%）に比べやや多くなっている。（問30）</li> <li>● 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援（45.6%）」が全体（39.2%）に比べやや多くなっている。（問37）</li> </ul>
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本人の就労状況は、「仕事をしていない（52.9%）」が全体（40.2%）に比べ多くなっている。（問16）</li> <li>● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う（32.4%）」と「どちらかといえば住みやすいと思う（51.0%）」を合わせた『住みやすい』が8割を超えている。（問25）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（36.4%）」が3割を超えている。（問29）</li> <li>● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」「放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備」「学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備」が同率（45.5%）で最も多くなっている。（問41）</li> </ul>

### (3) 住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、インターネットやスマートフォンを誰もが使えるような場、公園やスーパー等、身近な既存の誰もが来られる場、誰もがリラックスでき、地域の情報も得られるような場が挙げられた。
- ② 集まってできたらしいこととして、双方向で学び合うことができ、win-winの関係になれる内容や、見ているだけでも良いような、参加をしなくても良いこと等が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、まず行ってみるといった「最初の一步」が重要であることや、コミュニティごとの広報紙、口コミ、声かけ（友人など）が挙げられた。

#### (参考) 「アンケート調査結果の特徴」の集計データ

##### ■市民（18歳以上）：経済的な理由で困った経験

各項目1位に網掛		現在困っている	現在、困ったことがある	困ったことはない	無回答	『困ったことがある』	『困ったことはない』
全体	(N=815)	11.2	17.1	68.3	3.4	28.3	68.3
緑ヶ丘・滝坂	(n=102)	8.8	21.6	64.7	4.9	30.4	64.7

##### ■市民（18歳以上）：市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		相談体制や情報提供の充実	利用者の立場や権利を保護・擁護	子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する事業の充実	在宅サービスの質と量の確保	施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保	ボランティア団体やNPOなどの育成・活動支援	市民同士が支え合う仕組みの充実	市民間の確保と活性化	市民の推進	市民への福祉意識の啓発	その他	無回答
全体	(N=815)	55.1	22.0	36.2	22.6	32.4	7.5	15.3	16.1	10.9	12.1	1.8	4.8
緑ヶ丘・滝坂	(n=102)	57.8	24.5	38.2	24.5	28.4	6.9	15.7	13.7	9.8	19.6	0.0	2.9

■高齢者（65歳以上）：介護の状況

各項目1位に網掛		る介家 護族 をや 受親 けて族 てか い	利用保 して険 いて制 る護度 をを	る介そ 護の を受の けて人 てか	ない 介 護を 受けて い	無 回 答
全体	(N=1203)	5.2	7.6	0.7	87.4	1.4
緑ヶ丘・滝坂	(n=147)	3.4	3.4	0.0	93.2	0.7

■高齢者（65歳以上）：近所付き合いの状況

各項目1位に網掛		くる介 護を 受けて いる 親 し	家 を 行 き 来 し す	程 度 立 ち 話 を す る	るあ い さ つ を す る 程 度	を近 所付 き合 い な い	無 回 答
全体	(N=1203)	13.3	40.1	39.1	6.7	0.8	
緑ヶ丘・滝坂	(n=147)	13.6	38.1	43.5	4.8	0.0	

■高齢者（65歳以上）：困ったときの身近な相談相手（人・機関）

各項目1位に網掛		同居の 家族	別居の 家族や 親戚	自治会 や近所 の人	友人・ 知人	民生委 員・児 童委員	地域福 祉コー ディネ ーター	ケアマ ネジャー （介護 支援専 門員） ・ヘル パー （介護 員）な どの事 業者	かかり つけ医 や保健 師など の医療 関係者	市役所	社会福 祉協 議会	地域包 括支 援セン ター	ちよう ふ若 者サポ ートス テーシ ョン	子ど も家 庭支 援セン ター すこ やか	調 布 ラ イ フ サ ポ ー ト	その他	身 近 に 相 談 で き る 人 や 機 関 は な い	無 回 答
全体	(N=1203)	64.9	58.9	7.3	37.2	1.7	1.3	10.2	17.9	6.2	2.6	8.1	0.1	0.0	0.3	0.5	4.8	3.5
緑ヶ丘・滝坂	(n=147)	70.1	61.9	7.5	41.5	0.7	1.4	6.1	19.0	4.1	0.7	6.8	0.0	0.0	0.0	0.7	3.4	2.7

■高齢者（65歳以上）：市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		趣味や 生きが いづく り・社 会参 加への 支援	働く 機会 や場 所づく り	介護が 必要に ならな いた めの 健康 づく りなど の支 援	自立生 活のた めの家 事（炊 事・洗 濯・掃 除など） につ いての 指導	介護保 険サー ビスの 充実（ ホーム ヘルプ サー ビス・ デイサ ービス ・ショ ートス テイ など）	食サー ビス・ 紙お むつ の給 付など	介護保 険以外 の保 健福 祉サー ビスの 充実（ 配	ポラン ティア や地 域活 動の 充実	ひとり 暮らし などの 高齢 者に 対する 見守 りや 支え 合う まち づく りへの 支 援	低所得 者など への 経済 的支 援	既存住 宅の 改修 支 援	安価な 賃貸 住宅 の供 給	段差な どが なく 利用 しや すい 公共 施設 ・交 通 機 関の 整備	特別養 護老 人ホ ーム など の入 所施 設の 整備	利用し やすい 成年 後見 制度	介護者 に 対する 支 援	その他	わ か ら な い	無 回 答
全体	(N=1203)	32.8	19.7	43.6	7.8	39.5	24.4	8.9	39.2	23.0	12.5	17.0	23.3	38.7	6.3	28.6	1.0	4.6	7.1	
緑ヶ丘・滝坂	(n=147)	36.1	16.3	46.9	10.9	38.8	24.5	12.9	45.6	20.4	10.2	19.0	28.6	36.1	6.8	32.0	1.4	5.4	4.1	

■障害者（18歳以上）：本人の就労状況

各項目1位に網掛		正規の社員・職員・役員	非正規の社員・職員（嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣）	自由業・自営業（家業手伝いを含む）	障害者施設（作業所など）	仕事をしていたが、現在は	仕事をしていたが、現在は	これまで仕事をしたことがない（学生を含む）	無回答
全体	(N=981)	16.0	17.0	3.6	12.7	40.2	6.3	4.2	
緑ヶ丘・滝坂	(n=102)	14.7	10.8	2.0	12.7	52.9	2.0	4.9	

■障害者（18歳以上）：調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか

各項目1位に網掛		住みやすいと思う	どちらかといえど、住みやすいと思う	どちらかといえど、住みやすいと思う	住みやすいと思わない	無回答	『住みやすい』	『住みやすいと思わない』
全体	(N=981)	22.3	54.2	12.0	6.4	5.0	76.5	18.4
緑ヶ丘・滝坂	(n=102)	32.4	51.0	9.8	4.9	2.0	83.4	14.7

■障害児（18歳未満）：調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか

各項目1位に網掛		住みやすいと思う	どちらかといえど、住みやすいと思う	どちらかといえど、住みやすいと思う	住みやすいと思わない	無回答	『住みやすい』	『住みやすいと思わない』
全体	(N=130)	10.0	66.2	16.2	6.2	1.5	76.2	22.4
緑ヶ丘・滝坂	(n=11)	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0	63.6	36.4

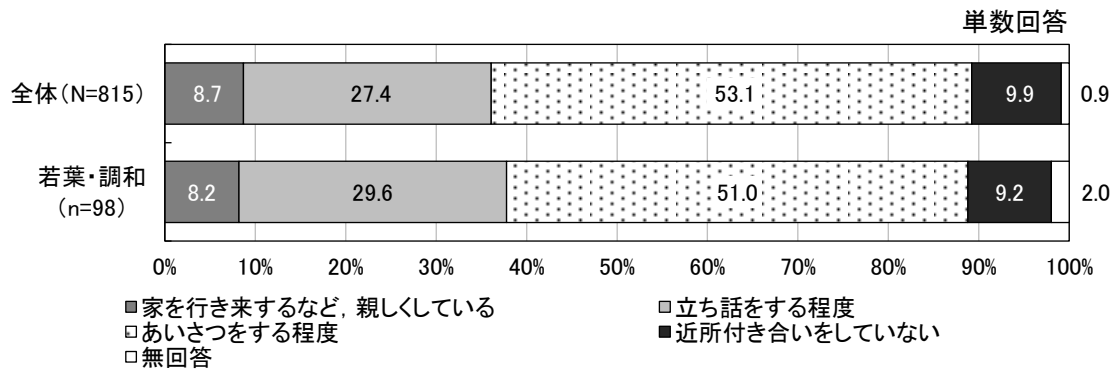
■障害児（18歳未満）：市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		を気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	手当や医療費の助成などの経済的な支援	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー、コミュニケーション支援など社会参加の支援	発達に関する相談や療育の充実	推進	特別支援教育の充実	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備	学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備	企業などで働くための支援（就労支援）	趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備	グループホームなど地域における住まいの場の整備	障害理解の促進や差別の解消	アフリ！	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	障害に応じた多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	その他	無回答
全体	(N=130)	61.5	20.0	53.8	38.5	23.8	26.2	36.2	65.4	29.2	53.1	48.5	49.2	43.8	39.2	35.4	37.7	21.5	34.6	22.3	6.2	3.8
緑ヶ丘・滝坂	(n=11)	36.4	9.1	9.1	18.2	27.3	18.2	27.3	45.5	18.2	27.3	45.5	45.5	27.3	36.4	36.4	36.4	9.1	18.2	18.2	0.0	18.2

## 2 若葉・調和小学校地域

### (1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：まわりの人から手助けしてほしいこと・手助けできること

各項目1位に網掛	安否確認の声かけ	ちよつと出した買い物	食事や掃除・洗濯の手伝い	手助けの送迎や外出の	子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時避難の手助け	具合がよくない時に病院などに連絡するに
① 手助けしてほしいか								
全体 (N=815)	51.0	13.6	8.5	15.8	16.0	28.1	70.2	51.9
若葉・調和 (n=98)	51.0	14.3	6.1	14.3	17.3	30.6	72.4	52.0
② 手助けできること								
全体 (N=815)	76.9	44.2	16.4	26.4	22.5	48.7	76.9	72.1
若葉・調和 (n=98)	81.6	52.0	14.3	21.4	21.4	46.9	81.6	76.5

■市民（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組状況・今後の取組意向

各項目1位に網掛	Aする活動、子育て世代・子どもや青少年やPTA支援	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	伝統や文化を伝える活動	お祭りや運動会などの地域のレク	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	地域の環境美化、環境保護などの活動	自治会などの協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
①取組状況										
全体 (N=815)	11.5	3.9	3.4	8.6	6.1	6.1	6.6	10.1	19.9	
若葉・調和 (n=98)	7.1	1.0	0.0	7.1	6.1	8.2	4.1	8.2	16.3	
②今後の取組意向										
全体 (N=815)	15.1	21.2	19.8	24.0	22.5	35.6	31.0	13.3	38.9	
若葉・調和 (n=98)	11.2	18.4	18.4	22.4	23.5	36.7	29.6	17.3	38.8	



■市民（18歳以上）：地域の暮らしの中での不安や課題

各項目1位に網掛		子育て、 子どもの教育	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	近所付き合いのこと、 友だち	と防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	（機関）が 少ないこと	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	(N=815)	14.4	22.9	13.5	32.0	14.5	13.1	19.4	4.9	14.1	30.1	6.1	1.1	25.6	6.5
若葉・調和	(n=98)	14.3	21.4	15.3	35.7	19.4	15.3	28.6	7.1	21.4	32.7	11.2	1.0	22.4	5.1

(2) アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手助けを「できる・してもいい」の割合は、『安否確認の声かけ』と『災害時避難の手助け』が同率で最も多くなっている。（問9「できる・してもいい」）</li> <li>● 経済的な理由で困った経験は、「困ったことはない」が最も多いものの、『困ったことがある』（「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」の合計）が3割を超えている。（問18）</li> <li>● 困ったときの身近な相談相手（人・機関）は、「同居の家族」と「別居の家族や親戚」が同率で最も多くなっている。（問21）</li> <li>● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「市民同士が支え合う仕組みの充実（21.4%）」が全体（15.3%）に比べやや多くなっている。（問33）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 介護の状況は、「介護を受けていない」が9割となっている。（問7）</li> <li>● 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（40.0%）」が最も多くなっている。（問8）</li> <li>● 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「安価な賃貸住宅の供給（23.6%）」が全体（17.0%）に比べやや多くなっている。（問37）</li> </ul>
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持っている手帳の種類は、「特定医療費（指定難病）受給者証（難病医療証）（26.3%）」が全体（18.7%）に比べやや多くなっている。（問7）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う（9.1%）」と「どちらかといえば住みやすいと思う（81.8%）」を合わせた『住みやすい』が9割を超えている。（問29）</li> <li>● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実（72.7%）」が最も多くなっている。（問41）</li> </ul>

### (3) 住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、駐車場やショッピングセンター等の民間施設、バリアフリーに配慮された空間、公共施設、ネット環境を利用できる場が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、ボードゲームがある、飲食・飲酒などができると良いこと、趣味、スポーツの活動、バザーや祭り、遊び等どのような世代でも行きやすいことが挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、SNS やチラシ類、口コミ等が挙げられた。

#### (参考) 「アンケート調査結果の特徴」の集計データ

##### ■市民（18歳以上）：経済的な理由で困った経験

各項目1位に網掛		現在困っている	現在、困ったことはない	困ったことはない	無回答	『困ったことがある』		『困ったことはない』	
全体	(N=815)	11.2	17.1	68.3	3.4	28.3	68.3		
若葉・調和	(n=98)	15.3	17.3	66.3	1.0	32.6	66.3		

##### ■市民（18歳以上）：困ったときの身近な相談相手（人・機関）

各項目1位に網掛		同居の家族	別居の家族や親戚	自治会や近所の人	友人・知人	民生委員・児童委員	地域福祉コーディネーター	ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者	かかりつけ医や保健師などの医療関係者	市役所	社会福祉協議会	地域包括支援センター	ちようふ若者サポートステーション	子ども家庭支援センターすこやか	調布ライフサポート	その他	身近に相談できる人や機関はない	無回答
全体	(N=815)	65.8	56.9	9.2	59.1	1.6	1.1	5.5	12.0	12.1	1.7	5.2	0.1	2.2	0.2	1.3	4.8	2.1
若葉・調和	(n=98)	60.2	60.2	9.2	59.2	5.1	2.0	5.1	13.3	11.2	1.0	7.1	0.0	2.0	1.0	0.0	5.1	3.1

■市民（18歳以上）：市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		相談体制や情報提供の充実	利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実	子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実	在宅サービスの質と量の確保	施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保	育成・活動支援	ボランティア団体やNPOなどの市民同士が支え合う仕組みの充実	民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化	市民・関連団体・行政の連携と協働の推進	市民への福祉意識の啓発	その他	無回答
全体	(N=815)	55.1	22.0	36.2	22.6	32.4	7.5	15.3	16.1	10.9	12.1	1.8	4.8
若葉・調和	(n=98)	55.1	26.5	37.8	20.4	29.6	10.2	21.4	18.4	13.3	12.2	1.0	3.1

■高齢者（65歳以上）：介護の状況

各項目1位に網掛		家族や親族から介護を受けている	介護保険制度を利用している	介護を受けている	その他の人から介護を受けている	介護を受けていない	無回答
全体	(N=1203)	5.2	7.6	0.7	87.4	1.4	
若葉・調和	(n=140)	3.6	5.7	0.7	90.0	2.9	

■高齢者（65歳以上）：近所付き合いの状況

各項目1位に網掛		くるとい親し	家を行き来する	立ち話を程度にする	あいさつをする程度	近所付き合いがない	無回答
全体	(N=1203)	13.3	40.1	39.1	6.7	0.8	
若葉・調和	(n=140)	20.7	34.3	40.0	4.3	0.7	

■高齢者（65歳以上）：市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		趣味や生きがいづくり・社会参加への支援	働く機会や場所づくり	介護が必要にならないための健康づくりなどの支援	自立生活のための家事（炊事・洗濯・掃除など）についての指導	介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）	食サービス・紙おむつの給付など	介護保険以外の保健福祉サービスの充実（配	ボランティアや地域活動の充実	ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援	低所得者などへの経済的支援	既存住宅の改修支援	安価な賃貸住宅の供給	機関の整備	特別養護老人ホームなどの入所施設の整備	利用しやすい成年後見制度	介護者に対する支援	その他	わからない	無回答
全体	(N=1203)	32.8	19.7	43.6	7.8	39.5	24.4	8.9	39.2	23.0	12.5	17.0	23.3	38.7	6.3	28.6	1.0	4.6	7.1	
若葉・調和	(n=140)	28.6	20.7	45.0	6.4	42.1	28.6	6.4	37.1	25.0	15.7	23.6	24.3	37.9	2.9	30.0	0.7	0.7	9.3	

■障害者（18歳以上）：持っている手帳の種類

各項目1位に網掛		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	特定医療費（指定難病） 受給者証（難病医療証）	持っていない	無回答
全体	(N=981)	47.2	19.3	14.8	18.7	3.4	5.2
若葉・調和	(n=99)	46.5	14.1	12.1	26.3	4.0	7.1

■障害児（18歳未満）：調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか

各項目1位に網掛		住みやすいと思う	どちらかといえば、住みやすいと思う		住みやすいと思わない	無回答	『住みやすい』		『住みやすいと思わない』	
			み	ど			『	』		
全体	(N=130)	10.0	66.2	16.2	6.2	1.5	76.2	22.4		
若葉・調和	(n=11)	9.1	81.8	9.1	0.0	0.0	90.9	9.1		

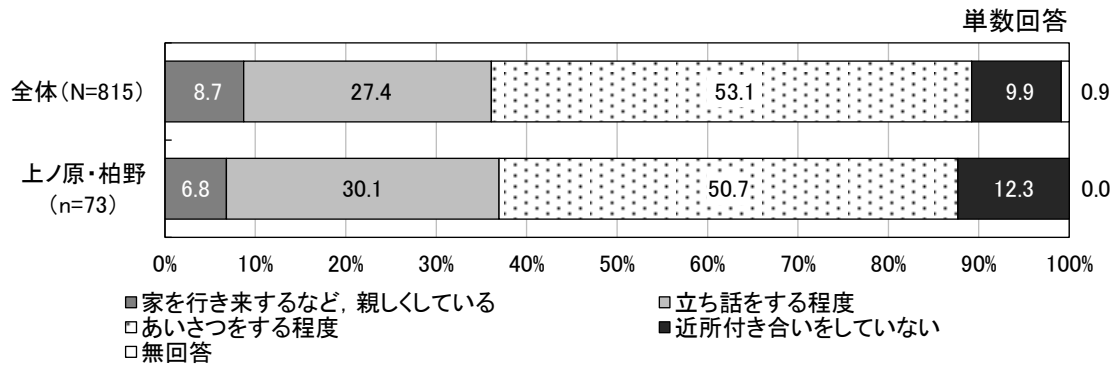
■障害児（18歳未満）：市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	援手や医療費の助成などの経済的な支援	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー、コミュニケーション支援など社会参加の支援	発達に関する相談や療育の充実	一時預かり、ショートステイ	保護者の病気など、緊急時における支援	保育園・幼稚園などにおける受入れの推進	特別支援教育の充実	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備	学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備	企業などで働くための支援（就労支援）	趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備	グループホームなど地域における住まいの場の整備	障害理解の促進や差別の解消	アフリ	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	障害に応じた多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	その他	無回答
全体	(N=130)	61.5	20.0	53.8	38.5	23.8	26.2	36.2	65.4	29.2	53.1	48.5	49.2	43.8	39.2	35.4	37.7	21.5	34.6	22.3	6.2	3.8		
若葉・調和	(n=11)	63.6	27.3	63.6	36.4	27.3	45.5	63.6	72.7	27.3	63.6	45.5	63.6	45.5	45.5	45.5	45.5	27.3	36.4	36.4	0.0	9.1		

### 3 上ノ原・柏野小学校地域

#### (1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：まわりの人から手助けしてほしいこと・手助けできること

各項目1位に網掛	安否確認の声かけ	ちよつと出した買い物	食事や掃除・洗濯の手伝い	手助けの送迎や外出の送り迎え	子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時避難の手助け	具合がよくない時に病院などに連絡する
① 手助けしてほしいか								
全体 (N=815)	51.0	13.6	8.5	15.8	16.0	28.1	70.2	51.9
上ノ原・柏野 (n=73)	42.5	15.1	12.3	16.4	21.9	24.7	72.6	56.2
② 手助けできること								
全体 (N=815)	76.9	44.2	16.4	26.4	22.5	48.7	76.9	72.1
上ノ原・柏野 (n=73)	67.1	42.5	21.9	21.9	30.1	47.9	83.6	76.7

■市民（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組状況・今後の取組意向

各項目1位に網掛	Aする活動	子育て世代・子どもや青少年をPT支援する活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	伝統文化を伝える活動	お祭りや運動会などの地域のレクリエーション活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	地域の環境美化、環境保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
①取組状況											
全体 (N=815)	11.5	3.9	3.4	8.6	6.1	6.1	6.6	10.1	19.9		
上ノ原・柏野 (n=73)	19.2	4.1	5.5	13.7	11.0	12.3	13.7	11.0	26.0		
②今後の取組意向											
全体 (N=815)	15.1	21.2	19.8	24.0	22.5	35.6	31.0	13.3	38.9		
上ノ原・柏野 (n=73)	20.5	21.9	20.5	26.0	30.1	39.7	34.2	13.7	41.1		

■市民（18歳以上）：地域の暮らしの中での不安や課題

各項目1位に網掛		子育て、 子どもの教育	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	近所付き合い、 付き合いのこと	と 防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	（機 軽に相談できる人 関）が少ないこと	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	(N=815)	14.4	22.9	13.5	32.0	14.5	13.1	19.4	4.9	14.1	30.1	6.1	1.1	25.6	6.5
上ノ原・柏野	(n=73)	20.5	27.4	21.9	43.8	15.1	17.8	26.0	5.5	13.7	31.5	1.4	1.4	21.9	5.5

(2) アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手助けを「できる・してもいい」の割合は、『災害時避難の手助け』が最も多くなっている。（問9「できる・してもいい」）</li> <li>● 利用している身近な拠点は、「図書館」が最も多くなっている。（問12）</li> <li>● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「市民・関連団体・行政の連携と協働の推進(15.1%)」が全体(10.9%)に比べやや多くなっている。（問33）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」が最も多くなっている。（問37）</li> </ul>
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う(26.5%)」と「どちらかといえば住みやすいと思う(62.7%)」を合わせた『住みやすい』が8割を超えている。（問25）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う(11.8%)」と「どちらかといえば住みやすいと思う(82.4%)」を合わせた『住みやすい』が9割を超えている。（問29）</li> <li>● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口(70.6%)」が最も多くなっている。（問41）</li> </ul>

### (3) 住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、公民館、児童館、公園等の公共施設や、民間施設として寺社仏閣、飲食店、企業との協働によるスペース活用等が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、まちめぐりや地図作りなど地域を知る内容や勉強会、体操、スポーツ、趣味活動のほか、多世代が交流でき気楽に集まれる場が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、紙による広報やデジタルの活用、地域協議会、民生委員、参加者同士のつながり等を活用した情報発信が挙げられた。

#### (参考) 「アンケート調査結果の特徴」の集計データ

##### ■市民（18歳以上）：利用している身近な拠点

各項目1位に網掛	文化会館たづくり	地域福祉センター	総合福祉センター	市民活動支援センター	ふれあいの家	公民館	図書館	小学校・中学校	民間の施設	個人宅	その他	どこも利用していない	無回答
全体 (N=815)	19.4	8.1	2.6	1.5	4.3	3.9	29.1	10.3	4.2	6.5	5.6	40.1	4.7
上ノ原・柏野 (n=73)	21.9	6.8	1.4	0.0	11.0	9.6	28.8	12.3	5.5	8.2	12.3	24.7	4.1

##### ■市民（18歳以上）：市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛	相談体制や情報提供の充実	利用者の立場や権利を保護・擁護	子どもから高齢者までの健康や介護の充実	在宅サービスの質と量の確保	施設サービスの質と量の確保	育成・活動支援	ボランティア団体やNPOなどの	市民同士が支え合う仕組みの充実	民間の確保と活性化	市民の確保と導入による福祉サービスの推進	市民・関連団体・行政の連携と協働	市民への福祉意識の啓発	その他	無回答
全体 (N=815)	55.1	22.0	36.2	22.6	32.4	7.5	15.3	16.1	10.9	12.1	1.8	4.8		
上ノ原・柏野 (n=73)	53.4	20.5	37.0	24.7	27.4	4.1	13.7	16.4	15.1	5.5	4.1	5.5		

■高齢者（65歳以上）：市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛	趣味や生きがいづくり・社会参加への支援	働く機会や場所づくり	介護が必要にならないための健康づくりなどの支援	自立生活のための家事（炊事・洗濯・掃除など）についての指導	介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）	介護保険以外の保健福祉サービスの充実（配食サービス・紙おむつの給付など）	ボランティアや地域活動の充実	ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援	低所得者などへの経済的支援	既存住宅の改修支援	安価な賃貸住宅の供給	段差などがなく利用しやすい公共施設・交通機関の整備	特別養護老人ホームなどの入所施設の整備	利用しやすい成年後見制度	介護者に対する支援	その他	わからない	無回答
全体 (N=1203)	32.8	19.7	43.6	7.8	39.5	24.4	8.9	39.2	23.0	12.5	17.0	23.3	38.7	6.3	28.6	1.0	4.6	7.1
上ノ原・柏野 (n=117)	31.6	23.9	40.2	8.5	32.5	22.2	10.3	45.3	20.5	11.1	14.5	21.4	43.6	2.6	29.9	0.9	4.3	3.4

■障害者（18歳以上）：調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちとを感じるか

各項目1位に網掛	住みやすいと思う	思えば、どちらかといえ	ど	思	ど	住みやすいと思わ	無回答	『住みやすい』	『住みやすいと思わ
全体 (N=981)	22.3	54.2	12.0	6.4	5.0	76.5	18.4		
上ノ原・柏野 (n=83)	26.5	62.7	7.2	2.4	1.2	89.2	9.6		

■障害児（18歳未満）：調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちとを感じるか

各項目1位に網掛	住みやすいと思う	ど	思	ど	住みやすいと思わ	無回答	『住みやすい』	『住みやすいと思わ
全体 (N=130)	10.0	66.2	16.2	6.2	1.5	76.2	22.4	
上ノ原・柏野 (n=17)	11.8	82.4	0.0	0.0	5.9	94.2	0.0	

■障害児（18歳未満）：市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組

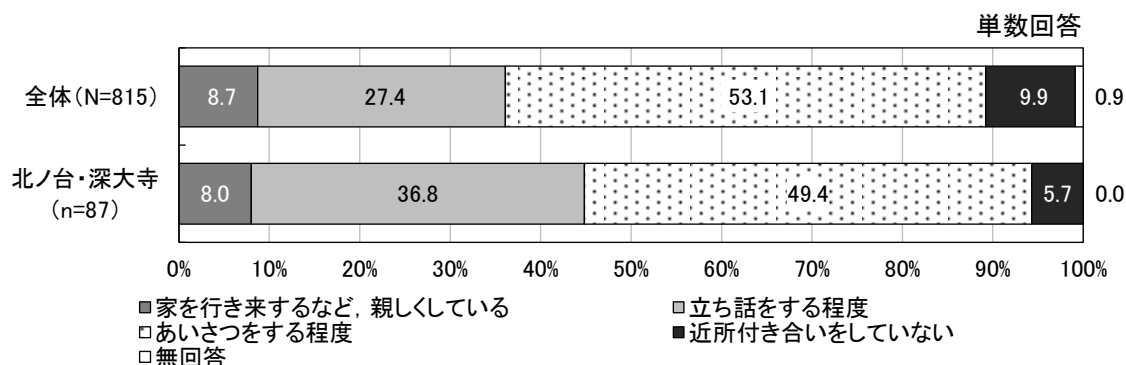
各項目1位に網掛	困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	援	管理の支援	成年後見制度など、金銭・財産などの	ホームヘルプなど、在宅生活を支援する	ガイドヘルパー、コミュニケーション	支援など社会参加の支援	発達に関する相談や療育の充実	一時預かり、ショートステイ	一	特別支援教育の充実	放	学	企業	趣味や余暇活動・スポーツ活動などの	の場の整備	障	公	障	災	そ	無
全体 (N=130)	61.5	20.0	53.8	38.5	23.8	26.2	36.2	65.4	29.2	53.1	48.5	49.2	43.8	39.2	35.4	37.7	21.5	34.6	22.3	6.2	3.8		
上ノ原・柏野 (n=17)	70.6	29.4	47.1	47.1	23.5	35.3	35.3	64.7	47.1	52.9	17.6	47.1	17.6	52.9	41.2	35.3	17.6	35.3	11.8	5.9	0.0		



## 4 北ノ台・深大寺小学校地域

### (1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：まわりの人から手助けしてほしいこと・手助けできること

各項目1位に網掛	安否確認の声かけ	ちよみ出した買い物	食事や掃除・洗濯の手伝い	手助けの送迎や外出の送り迎え	子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時避難の手助け	具合がよくない時に病院などに連絡する
① 手助けしてほしいか								
全体 (N=815)	51.0	13.6	8.5	15.8	16.0	28.1	70.2	51.9
北ノ台・深大寺 (n=87)	51.7	16.1	10.3	20.7	13.8	32.2	70.1	57.5
② 手助けできること								
全体 (N=815)	76.9	44.2	16.4	26.4	22.5	48.7	76.9	72.1
北ノ台・深大寺 (n=87)	79.3	50.6	17.2	35.6	20.7	59.8	75.9	67.8

■市民（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組状況・今後の取組意向

各項目1位に網掛	Aする活動、子育て世代・子どもや青少年やPTA支援	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	伝統や文化を伝える活動	お祭りや運動会などの地域のレクリエーション活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	全地域の環境美化、環境保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
①取組状況										
全体 (N=815)	11.5	3.9	3.4	8.6	6.1	6.1	6.6	10.1	19.9	
北ノ台・深大寺 (n=87)	10.3	2.3	0.0	8.0	5.7	4.6	6.9	12.6	23.0	
②今後の取組意向										
全体 (N=815)	15.1	21.2	19.8	24.0	22.5	35.6	31.0	13.3	38.9	
北ノ台・深大寺 (n=87)	12.6	21.8	18.4	19.5	18.4	34.5	31.0	10.3	39.1	

■市民（18歳以上）：地域の暮らしの中での不安や課題

各項目1位に網掛		子育て、 子どもの教育	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	近所付き合いのこと、 友だち	と防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	（機関）が 少ないこと	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	(N=815)	14.4	22.9	13.5	32.0	14.5	13.1	19.4	4.9	14.1	30.1	6.1	1.1	25.6	6.5
北ノ台・深大寺	(n=87)	11.5	28.7	16.1	32.2	16.1	8.0	13.8	4.6	10.3	28.7	3.4	0.0	20.7	9.2

(2) アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住居形態は、「持ち家（一戸建て）」が7割を超えている。（問5）</li> <li>● 近所付き合いの状況は、『親密な近所付き合いをしている』（「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」の合計）割合が4割を超える高い数値となっている。（問8）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 介護の状況は、「介護保険制度を利用して介護を受けている」が1割となっている。（問7）</li> <li>● 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（42.2%）」が最も多くなっている。（問8）</li> <li>● 困ったときの身近な相談相手（人・機関）は、「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者（15.7%）」が全体（10.2%）に比べやや多くなっている。（問30）</li> </ul>
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 希望する暮らし方は、「親や兄弟などの家族と一緒に生活する（33.3%）」が最も多くなっている。（問11）</li> <li>● 地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「あまり取り組みたくない（33.3%）」が最も多くなっている。（問13）</li> <li>● 本人の就労状況は、「仕事をしていない（28.6%）」が全体（40.2%）に比べ少なく、「非正規の社員・職員（嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣）（23.8%）」「障害者施設（作業所など）（17.9%）」がやや多く（全体はそれぞれ17.0%、12.7%）なっている。（問16）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「取り組みたいが、できない（40.0%）」が最も多くなっている。（問26）</li> <li>● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「手当や医療費の助成などの経済的な支援（80.0%）」が最も多くなっている。（問41）</li> </ul>

障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
<p>● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（14.3%）」と「住みやすいと思わない（11.9%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が2割を超えている。（問25）</p>	

### （3）住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、空き家、空き店舗、休耕地や田畑の活用、銭湯、寺社仏閣、飲食店等との協力、公共施設が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、古地図の活用やまち歩き等の散歩、認知症や障害児がスタッフとなる食堂・カフェ等多様な人たちがお話できる場、娯楽・運動のほか、キャンプや星空観賞、ヨガ等、一人でも楽しめる内容が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、回覧や掲示板、チラシ等の紙媒体、コンビニや銭湯等の地域店舗へのチラシ配架、学校や子ども会の活用、SNSの活用等が挙げられた。

#### （参考）「アンケート調査結果の特徴」の集計データ

##### ■市民（18歳以上）：住居形態

項目1位に網掛		て持 ）ち 家 （ 一 戸 建	宅持 ）ち 家 （ 集 合 住	て民 ）間 賃 貸 （ 一 戸 建	宅民 ）間 賃 貸 （ 集 合 住	都公 ）営 住 宅 （ 市 営 ・ 都 営 住 宅 等	等社 ）宅 ・ 公 務 員 住 宅	上 記 以 外	無 回 答
全体	(N=815)	45.2	24.9	1.0	20.5	5.3	0.9	1.2	1.1
北ノ台・深大寺	(n=87)	75.9	2.3	1.1	17.2	2.3	0.0	1.1	0.0

##### ■高齢者（65歳以上）：介護の状況

各項目1位に網掛		る介 ）家 ）族 を 受 ）親 ）族 ）て ）か ）い ）ら	受利 ）介 ）用 ）保 ）険 ）制 ）度 ）を	る介 ）そ ）の ）を ）受 ）け ）て ）か ）い ）ら	な介 ）い ）護 ）を ）受 ）け ）て ）い ）ら	無 回 答
全体	(N=1203)	5.2	7.6	0.7	87.4	1.4
北ノ台・深大寺	(n=102)	7.8	10.8	0.0	84.3	2.9

■高齢者（65歳以上）：近所付き合いの状況

各項目1位に網掛		くるなど、 親し	家を 行き来 する	程度 立ち 話を する	るあ いさ つを す	を近 所付 き合 い	無 回 答
全体	(N=1203)	13.3	40.1	39.1	6.7	0.8	
北ノ台・深大寺	(n=102)	14.7	34.3	42.2	7.8	1.0	

■高齢者（65歳以上）：困ったときの身近な相談相手（人・機関）

各項目1位に網掛		同居の 家族	別居の 家族や 親戚	自治会 や近所 の人	友人・ 知人	民生委 員・児 童委員	地域福 祉コー ディネ ーター	ケアマ ネジャ ー（介 護支 援専 門員） ・ハ ルパー （介 護員） など の事 業者	者か かり つけ 医や 保 健師 など の医 療関 係	市役 所	社会 福祉 協 議 会	地域 包括 支 援 セ ン タ ー	ち よ う ふ 若 者 サ ポ ー ト ス テ ー シ ョ ン	子 ど も 家 庭 支 援 セ ン タ ー す こ や か	調 布 ラ イ フ サ ポ ー ト	そ の 他	身 近 に 相 談 で き る 人 や 機 関 は な い	無 回 答
全体	(N=1203)	64.9	58.9	7.3	37.2	1.7	1.3	10.2	17.9	6.2	2.6	8.1	0.1	0.0	0.3	0.5	4.8	3.5
北ノ台・深大寺	(n=102)	62.7	57.8	7.8	38.2	2.0	1.0	15.7	18.6	9.8	2.9	9.8	0.0	0.0	1.0	0.0	5.9	2.9

■障害者（18歳以上）：希望する暮らし方

各項目1位に網掛		に親 や兄 弟な どの 家 族と 一緒	ひとり 暮らし 、また は自 分	グ ル ー プ ホ ー ム で 生 活 す る	入 所 施 設 で 生 活 す る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	(N=981)	27.2	41.2	5.3	3.7	3.0	15.9	3.8
北ノ台・深大寺	(n=84)	33.3	32.1	7.1	2.4	2.4	20.2	2.4

■障害者（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組意向

各項目1位に網掛		ん積 で極 め た い 取 組	組 で ん き る だ け 、 取 り	り機 組 会 が あ れ ば 、 取	で取 り 組 み た い が、	くあ ま り 取 り 組 み た	無 回 答
全体	(N=981)	1.8	9.5	30.9	20.3	30.6	6.9
北ノ台・深大寺	(n=84)	3.6	16.7	21.4	19.0	33.3	6.0

■障害者（18歳以上）：本人の就労状況

各項目1位に網掛		正規の社員・職員・役員	非正規の社員・職員（嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣）	自由業・自営業（家業手伝を含む）	障害者施設（作業所など）	仕事をしていたが、現在は	仕事をしていない	これまで仕事をしたことがない（学生を含む）	無回答
全体	(N=981)	16.0	17.0	3.6	12.7	40.2	6.3	4.2	
北ノ台・深大寺	(n=84)	15.5	23.8	4.8	17.9	28.6	7.1	2.4	

■障害者（18歳以上）：調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか

各項目1位に網掛		住みやすいと思う	思えば、どちらかといえ	どち	思わ	ど	住みやすいと思わ	無回答	『住みやすい』	『住みやすいと思わ
全体	(N=981)	22.3	54.2	12.0	6.4	5.0	76.5	18.4		
北ノ台・深大寺	(n=84)	16.7	52.4	14.3	11.9	4.8	69.1	26.2		

■障害児（18歳未満）：保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向

各項目1位に網掛		積極的に、取り組んでいき	たい	積	き	で	も	機	取	あ	無
全体	(N=130)	3.1	10.0	41.5	20.8	21.5	3.1				
北ノ台・深大寺	(n=15)	6.7	0.0	33.3	40.0	20.0	0.0				

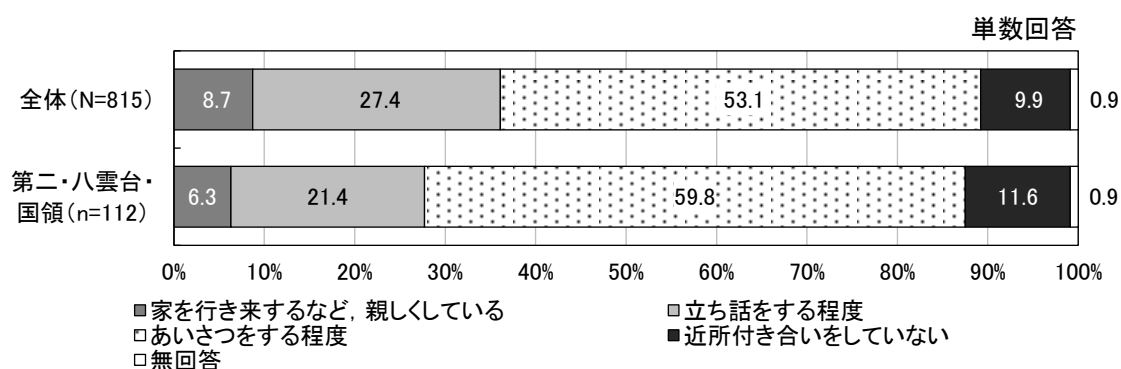
■障害児（18歳未満）：市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		を気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	援	管理の支援	成年後見制度など、金銭・財産などの	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー、コミュニケーション	支援など社会参加の支援	保護者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ	発達に関する相談や療育の充実	推進	特別支援教育の充実	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備	学校卒業後の日中の活動場所（作業所	企業などで働くための支援（就労支援）	趣味や余暇活動・スポーツ活動などの	グループホームなど地域における住ま	障害理解の促進や差別の解消	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	障害に合わせた多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	その他	無回答
全	体	(N=130)	61.5	20.0	53.8	38.5	23.8	26.2	36.2	65.4	29.2	53.1	48.5	49.2	43.8	39.2	35.4	37.7	21.5	34.6	22.3	6.2	3.8	
北ノ台・深大寺	(n=15)	60.0	20.0	80.0	40.0	40.0	33.3	40.0	60.0	20.0	46.7	60.0	53.3	46.7	60.0	26.7	53.3	40.0	53.3	40.0	40.0	13.3	0.0	

## 5 第二・八雲台・国領小学校地域

### (1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：まわりの人から手助けしてほしいこと・手助けできること

各項目1位に網掛	安否確認の声かけ	ちよつと買物	食事や掃除・洗濯の手伝い	通院の送迎や外出の手助け	子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時避難の手助け	具合がよくない時に連絡する
① 手助けしてほしいか								
全体 (N=815)	51.0	13.6	8.5	15.8	16.0	28.1	70.2	51.9
第二・八雲台・国領 (n=112)	57.1	14.3	8.0	17.0	14.3	26.8	72.3	50.0
② 手助けできること								
全体 (N=815)	76.9	44.2	16.4	26.4	22.5	48.7	76.9	72.1
第二・八雲台・国領 (n=112)	72.3	38.4	17.9	25.0	17.9	39.3	71.4	65.2

■市民（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組状況・今後の取組意向

各項目1位に網掛	Aする活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	伝統や文化を伝える活動	お祭りや運動会などの地域の活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	地域の環境美化、環境保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
①取組状況										
全体 (N=815)	11.5	3.9	3.4	8.6	6.1	6.1	6.6	10.1	19.9	
第二・八雲台・国領 (n=112)	8.9	3.6	5.4	5.4	2.7	1.8	2.7	5.4	17.0	
②今後の取組意向										
全体 (N=815)	15.1	21.2	19.8	24.0	22.5	35.6	31.0	13.3	38.9	
第二・八雲台・国領 (n=112)	10.7	20.5	19.6	21.4	15.2	26.8	26.8	8.9	36.6	

■市民（18歳以上）：地域の暮らしの中での不安や課題

各項目1位に網掛		の子育て、子どもの教育	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	近所付き合いのこと、友だち	と防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	（機関）が少ないこと	その他	特になし	無回答
全 体	(N=815)	14.4	22.9	13.5	32.0	14.5	13.1	19.4	4.9	14.1	30.1	6.1	1.1	25.6	6.5
第二・八雲台・国領	(n=112)	10.7	28.6	13.4	33.0	17.9	16.1	19.6	1.8	15.2	30.4	5.4	0.9	25.9	9.8

(2) アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住居形態は、「持ち家（一戸建て）」と「民間賃貸（集合住宅）」が同率で最も多くなっている。（問5）</li> <li>● 近所付き合いの状況は、『親密な近所付き合いをしている』（「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」の合計）割合が3割に満たない数値となっている。（問8）</li> <li>● 経済的な理由で困った経験は、「困ったことはない」が最も多いものの、『困ったことがある』（「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」の合計）が3割を超えている。（問18）</li> <li>● 困ったときの身近な相談相手（人・機関）は、「別居の家族や親戚」が最も多くなっている。（問21）</li> <li>● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「相談体制や情報提供の充実（65.2%）」が全体（55.1%）に比べ多くなっている。（問33）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 介護の状況は、「介護を受けていない」が9割となっている。（問7）</li> <li>● 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（40.6%）」が最も多くなっている。（問8）</li> </ul>

障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持っている手帳の種類は、「精神障害者保健福祉手帳（19.9%）」が全体（14.8%）に比べやや多くなっている。（問7）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 希望するお子さんの暮らし方は、「親やきょうだい（兄弟・姉妹）などの家族と一緒に生活する」「グループホームで生活する」（31.6%）が最も多くなっている。（問20）</li> <li>● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」「手当や医療費の助成などの経済的な支援」「発達に関する相談や療育の充実」が同率（68.4%）で最も多くなっている。（問41）</li> </ul>

### （3）住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、多摩川や公園等屋外の良いところの活用、大学等の教育施設、人が流れる・不特定の人がいて良いような駅前広場やスーパー、公共施設・空き家の活用等が挙げられた。
- ② 集まってできたらしいこととして、運動・食事、趣味や遊びの場、気分転換や好きな話ができる場、子どもの宿題を見る場、サロンで相談ができる場等が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、掲示、ラジオ・ケーブルテレビやSNS等の活用、公共施設でのチラシ配架、口コミ、自治会やサロン、リタイア後のサークル等のコミュニティの活用等が挙げられた。

### （参考）「アンケート調査結果の特徴」の集計データ

#### ■市民（18歳以上）：住居形態

各項目1位に網掛		持ち家（一戸建）	持ち家（集合住宅）	民間賃貸（一戸建）	民間賃貸（集合住宅）	都営住宅（市営・公営住宅等）	社宅・公務員住宅等	上記以外	無回答
全体	(N=815)	45.2	24.9	1.0	20.5	5.3	0.9	1.2	1.1
第二・八雲台・国領	(n=112)	30.4	25.9	0.0	30.4	8.9	1.8	0.9	1.8



■市民（18歳以上）：経済的な理由で困った経験

各項目1位に網掛		現在困っている	現在、困ったことがある	困ったことはない	無回答	『困ったことがある』		『困ったことはない』	
全体	(N=815)	11.2	17.1	68.3	3.4	28.3	68.3		
第二・八雲台・国領	(n=112)	11.6	18.8	63.4	6.3	30.4	63.4		

■市民（18歳以上）：困ったときの身近な相談相手（人・機関）

項目1位に網掛		同居の家族	別居の家族や親戚	自治会や近所の人	友人・知人	民生委員・児童委員	地域福祉コーディネーター	ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者	かかりつけ医や保健師などの医療関係者	市役所	社会福祉協議会	地域包括支援センター	ちようふ若者サポートステーション	子ども家庭支援センターすこやか	調布ライフサポート	その他	身近に相談できる人や機関はない	無回答
全体	(N=815)	65.8	56.9	9.2	59.1	1.6	1.1	5.5	12.0	12.1	1.7	5.2	0.1	2.2	0.2	1.3	4.8	2.1
第二・八雲台・国領	(n=112)	57.1	58.0	6.3	56.3	0.9	0.0	6.3	14.3	9.8	1.8	6.3	0.0	0.9	0.9	3.6	6.3	2.7

■市民（18歳以上）：市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		相談体制や情報提供の充実	利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実	子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実	在宅サービスの質と量の確保	施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保	育成・活動支援	ボランティア団体やNPOなどの市民同士が支え合う仕組みの充実	市民同士の確保と活性化	民間活力の導入による福祉サービスの推進	市民・関連団体・行政の連携と協働	市民への福祉意識の啓発	その他	無回答
全体	(N=815)	55.1	22.0	36.2	22.6	32.4	7.5	15.3	16.1	10.9	12.1	1.8	4.8	
第二・八雲台・国領	(n=112)	65.2	24.1	38.4	21.4	31.3	13.4	17.9	9.8	11.6	13.4	0.9	7.1	

■高齢者（65歳以上）：介護の状況

各項目1位に網掛	る介家 護族 をや 受親 け族 てか い ら	受利介 けて用 いて保 る険 介制 護度 をを	る介そ 護の を他 受の けて人 てか い ら	ない 介 護 を 受 け て い	無 回 答
全体 (N=1203)	5.2	7.6	0.7	87.4	1.4
第二・八雲台・国領 (n=175)	4.0	4.6	0.0	92.0	0.0

■高齢者（65歳以上）：近所付き合いの状況

各項目1位に網掛	くる家 しな を て ど 行 い 、 き る 親 来 し す	程立 度ち 話 を す る	るあ 程い 度さ つ を す	を近 し所 して 付 い き 合 い ない	無 回 答
全体 (N=1203)	13.3	40.1	39.1	6.7	0.8
第二・八雲台・国領 (n=175)	14.9	37.1	40.6	7.4	0.0

■障害者（18歳以上）：持っている手帳の種類

各項目1位に網掛	身 体 障 害 者 手 帳	愛 の 手 帳	精 神 障 害 者 保 健 福 祉 手 帳	受 給 者 証 （ 難 病 医 療 証 ）	特 定 医 療 費 （ 指 定 難 病 ）	持 っ て い な い	無 回 答
全体 (N=981)	47.2	19.3	14.8	18.7	3.4	5.2	
第二・八雲台・国領 (n=156)	44.9	19.9	19.9	17.9	1.9	4.5	

■障害児（18歳未満）：希望するお子さんの暮らし方

各項目1位に網掛	族弟親 と・や 一姉き 緒妹よ にに 生な 活だ すの すの る家兄	緒はひ に本と 生人 活の す配 る偶 す者 の、 とま 一た	活グ するル す一 るグ ル ー プ ホ ー ム で 生	入 所 施 設 で 生 活 す る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体 (N=130)	18.5	45.4	13.1	0.8	3.8	18.5	0.0
第二・八雲台・国領 (n=19)	31.6	26.3	31.6	0.0	0.0	10.5	0.0

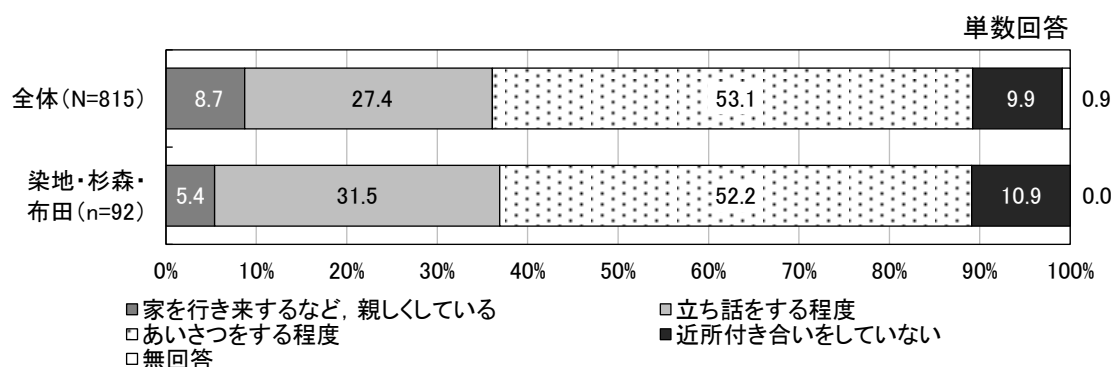
■障害児（18歳未満）：市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組

		困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	手当や医療費の助成などの経済的な支援	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー、コミュニケーション支援など社会参加の支援	一時預かり、ショートステイ	保護者の病气など、緊急時における一時的な支援	発達に関する相談や療育の充実	保育園・幼稚園などにおける受入れの推進	特別支援教育の充実	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備	学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備	企業などで働くための支援（就労支援）	趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備	グループホームなど地域における住まいの場の整備	障害理解の促進や差別の解消	アフリート	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	障害に合った多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	その他	無回答
各項目1位に網掛																								
全 体	(N=130)	61.5	20.0	53.8	38.5	23.8	26.2	36.2	65.4	29.2	53.1	48.5	49.2	43.8	39.2	35.4	37.7	21.5	34.6	22.3	6.2	3.8		
第二・八雲台・国領	(n=19)	68.4	21.1	68.4	42.1	26.3	21.1	36.8	68.4	15.8	63.2	52.6	52.6	31.6	21.1	47.4	42.1	10.5	31.6	10.5	10.5	0.0		

## 6 染地・杉森・布田小学校地域

### (1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：まわりの人から手助けしてほしいこと・手助けできること

各項目1位に網掛		安否確認の声かけ	ちよつと出した買い物	食事や掃除・洗濯の手伝い	通院の送迎や外出の手助け	子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時避難の手助け	具合がよくない時に病院などに連絡する
① 手助けしてほしいか									
全体 (N=815)	51.0	13.6	8.5	15.8	16.0	28.1	70.2	51.9	
染地・杉森・布田 (n=92)	58.7	12.0	6.5	12.0	14.1	26.1	67.4	51.1	
② 手助けできること									
全体 (N=815)	76.9	44.2	16.4	26.4	22.5	48.7	76.9	72.1	
染地・杉森・布田 (n=92)	85.9	41.3	18.5	27.2	22.8	54.3	77.2	72.8	

■市民（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組状況・今後の取組意向

各項目1位に網掛		Aする活動	子育て世代・子どもや青少年をPTA支援する活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	伝統や文化を伝える活動	お祭りや運動会などの地域のレクリエーション活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	全地域の環境美化、環境保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
①取組状況												
全体 (N=815)	11.5	3.9	3.4	8.6	6.1	6.1	6.6	10.1	19.9			
染地・杉森・布田 (n=92)	14.1	6.5	5.4	12.0	8.7	8.7	5.4	16.3	18.5			
②今後の取組意向												
全体 (N=815)	15.1	21.2	19.8	24.0	22.5	35.6	31.0	13.3	38.9			
染地・杉森・布田 (n=92)	15.2	16.3	13.0	26.1	21.7	32.6	21.7	14.1	44.6			

■市民（18歳以上）：地域の暮らしの中での不安や課題

各項目1位に網掛		の子育て、子どもの教育	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	近所付き合いのこと、友だち	と防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	（機関）に相談できる人が少ないこと	その他	特になし	無回答
全 体	(N=815)	14.4	22.9	13.5	32.0	14.5	13.1	19.4	4.9	14.1	30.1	6.1	1.1	25.6	6.5
染地・杉森・布田	(n=92)	10.9	21.7	9.8	27.2	10.9	10.9	14.1	3.3	9.8	32.6	2.2	1.1	30.4	3.3

(2) アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の暮らしの中での不安や課題は、「災害時のこと」が最も多くなっている。（問23）</li> <li>● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保（38.0%）」が全体（32.4%）に比べやや多くなっている。（問33）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 介護の状況は、「介護保険制度を利用して介護を受けている」が1割となっている。（問7）</li> <li>● 近所付き合いの状況は、『親密な近所付き合いをしている』（「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」の合計）割合が6割を超える高い数値となっている。（問8）</li> </ul>
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「あまり取り組みたくない（33.9%）」が最も多くなっている。（問13）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学生の保護者が放課後活動に求めていることは、「体を動かす（80.0%）」が最も多くなっている。（問11）</li> <li>● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（83.3%）」が最も多くなっている。（問41）</li> </ul>

### (3) 住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、柔軟に活用でき、誰でも入れる、初めの一步目が出しやすい雰囲気のある場所、小中学校、地域福祉センター、カフェ等の活用、様子が確認でき、ユニバーサルデザインとなっている場、多摩川河川敷、オンラインの場等が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、スポーツ観戦や体験活動、相互に学べる活動や、親子が自己肯定感を高める場、おしゃべりできる場等が挙げられた。また、その場に居てほしい人としてインターネット等ICT活用を教えてくれる人、話をゆっくり聞いてくれる人等が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、SNSやホームページ、チラシや掲示板活用、口コミ等の手段のほか、普段の付き合いを大切にすること、小中学校等、子ども関係を巻き込むこと、事前申し込みを不要にするなどの情報発信の際の工夫の重要性も挙げられた。

#### (参考)「アンケート調査結果の特徴」の集計データ

##### ■市民（18歳以上）：市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛	相談体制や情報提供の充実	利用者の立場や権利を保護・擁護	子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する事業の充実	在宅サービスの質と量の確保	施設サービスの質と量の確保	育成・活動支援やNPOなどの	市民同士が支え合う仕組みの充実	市民間の確保と活性化	市民の推進	市民への福祉意識の啓発	その他	無回答
全体 (N=815)	55.1	22.0	36.2	22.6	32.4	7.5	15.3	16.1	10.9	12.1	1.8	4.8
染地・杉森・布田 (n=92)	45.7	15.2	31.5	23.9	38.0	7.6	13.0	20.7	9.8	13.0	2.2	4.3

##### ■高齢者（65歳以上）：介護の状況

各項目1位に網掛	家族や親族から介護を受けている	受給している介護保険制度を利用している	介護保険制度を利用していない	その他の人から介護を受けている	介護を受けていない	無回答
全体 (N=1203)	5.2	7.6	0.7	87.4	1.4	
染地・杉森・布田 (n=137)	8.0	12.4	2.2	81.8	0.7	

■高齢者（65歳以上）：近所付き合いの状況

各項目1位に網掛		く る し な ど い る 親 し す	家 を 行 き 来 し す	程 度 立 ち 話 を す る	あ い さ つ を す る 程 度	近 所 付 き 合 い を し て い な い	無 回 答
全体	(N=1203)	13.3		40.1	39.1	6.7	0.8
染地・杉森・布田	(n=137)	16.1		46.0	30.7	6.6	0.7

■障害者（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組意向

各項目1位に網掛		人 で 積 極 的 に き た い 取 り 組 み	組 ん で い き た い 取 り	組 ん で い き た い 取 り 機 会 が あ れ ば 、 取 り	取 り 組 み た い が 、 取 り 組 み た い が 、	く あ ま り 取 り 組 み た い が 、	無 回 答
全体	(N=981)	1.8	9.5	30.9	20.3	30.6	6.9
染地・杉森・布田	(n=118)	0.8	8.5	31.4	17.8	33.9	7.6

■障害児（18歳未満）：小学生の保護者が放課後活動に求めていること

各項目1位に網掛		人 と の 交 流	学 習 の 補 助	体 を 動 か す	見 守 り ・ 預 か り の 間 の	興 味 の 幅 を 広 げ る	コ ミュ ニ ケー ション の 力 を つ け る	身 に つ け る ル ー ル や マ ナ ー を	そ の 他	無 回 答
全体	(N=88)	69.3	33.0	59.1	40.9	50.0	69.3	48.9	4.5	2.3
染地・杉森・布田	(n=10)	40.0	60.0	80.0	40.0	50.0	50.0	40.0	0.0	10.0

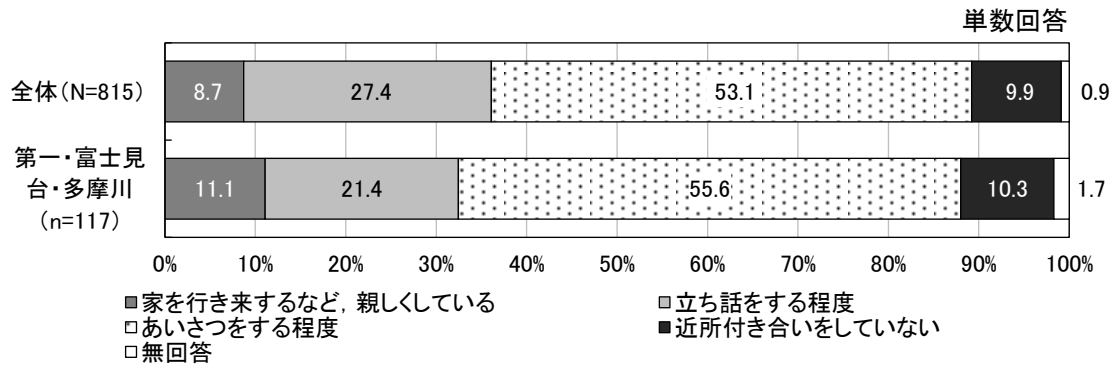
■障害児（18歳未満）：市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		を 困 っ た こ と や 福 祉 サ ー ビ ス の 利 用 な ど を 気 軽 に 相 談 で き る 窓 口	健 康 つ く り や 地 域 で の 医 療 サ ー ビ ス	援 手 当 り や 医 療 費 の 助 成 な ど の 経 済 的 な 支 援	成 年 後 見 度 な ど 、 金 銭 ・ 財 産 な ど の 支 援	ホ ー ム ハ ル プ な ど 、 在 宅 生 活 を 支 援 す る サ ー ビ ス	支 援 な ど 社 会 参 加 の 支 援	ゲ イ ド ハ ル ブ 、 コ ミュ ニ ケー ション	一 時 預 かり 、 シ ョ ー ト ス テ ィ	保 護 者 の 病 気 な ど 、 緊 急 時 に お け る	発 達 に 関 する 相 談 や 療 育 の 充 実	推 進 保 育 園 ・ 幼 稚 園 な ど に お け る 受 入 れ の	特 別 支 援 教 育 の 充 実	放 課 後 な ど の 活 動 場 所 （ 放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス な ど ） の 整 備	学 校 卒 業 後 の 日 中 の 活 動 場 所 （ 作 業 所 な ど ） の 整 備	支 援 な ど で 働 く た め の 支 援 （ 就 労 支 援 ）	興 味 や 余 暇 活 動 ・ ス ポ ー ツ 活 動 な ど の 支 援 場 所 の 整 備	グ ル ー プ ホ ー ム な ど 地 域 に お け る 住 ま の 整 備	障 害 理 解 の 促 進 や 差 別 の 解 消	障 害 に 応 じ た 多 様 な 情 報 提 供 の 充 実	公 共 施 設 や 道 路 、 交 通 機 関 な ど の バ リ ア フ リ ー	災 害 時 の 支 援 体 制 の 整 備	そ の 他	無 回 答
全 体	(N=130)	61.5	20.0	53.8	38.5	23.8	26.2	36.2	65.4	29.2	53.1	48.5	49.2	43.8	39.2	35.4	37.7	21.5	34.6	22.3	6.2	3.8		
染地・杉森・布田	(n=12)	83.3	33.3	66.7	41.7	41.7	50.0	33.3	58.3	16.7	50.0	58.3	41.7	58.3	41.7	41.7	33.3	41.7	41.7	33.3	8.3	0.0		

## 7 第一・富士見台・多摩川小学校地域

### (1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：まわりの人から手助けしてほしいこと・手助けできること

各項目1位に網掛	安否確認の声かけ	ちよつと出した買い物	食事や掃除・洗濯の手伝い	手助けの送迎や外出の送り迎え	子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時避難の手助け	具合がよくない時に病院などに連絡する
① 手助けしてほしいか								
全 体 (N=815)	51.0	13.6	8.5	15.8	16.0	28.1	70.2	51.9
第一・富士見台・多摩川 (n=117)	52.1	13.7	9.4	15.4	17.9	29.9	63.2	47.0
② 手助けできること								
全 体 (N=815)	76.9	44.2	16.4	26.4	22.5	48.7	76.9	72.1
第一・富士見台・多摩川 (n=117)	76.9	41.9	14.5	29.1	21.4	52.1	75.2	72.6

■市民（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組状況・今後の取組意向

各項目1位に網掛	Aする活動	子育て世代・子どもや青少年をPTA支援する活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	伝統文化を伝える活動	お祭りや運動会などの地域のレクリエーション活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	全地域の環境美化、環境保護などの活動	自治会などの協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
①取組状況											
全 体 (N=815)	11.5	3.9	3.4	8.6	6.1	6.1	6.6	10.1	19.9		
第一・富士見台・多摩川 (n=117)	12.8	6.0	5.1	8.5	4.3	7.7	6.0	11.1	19.7		
②今後の取組意向											
全 体 (N=815)	15.1	21.2	19.8	24.0	22.5	35.6	31.0	13.3	38.9		
第一・富士見台・多摩川 (n=117)	17.9	22.2	18.8	27.4	24.8	41.0	35.9	14.5	35.0		



■市民（18歳以上）：地域の暮らしの中での不安や課題

各項目1位に網掛		の子育て、子どもの教育	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	近所付き合い、友だち	と防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	（機関）に相談できる人が少ないこと	その他	特にな	無回答
全 体 (N=815)		14.4	22.9	13.5	32.0	14.5	13.1	19.4	4.9	14.1	30.1	6.1	1.1	25.6	6.5
第一・富士見台・多摩川 (n=117)		14.5	24.8	12.8	26.5	12.0	19.7	20.5	7.7	15.4	33.3	6.8	1.7	27.4	8.5

(2) アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住居形態は、「持ち家（集合住宅）」が最も多くなっている。（問5）</li> <li>● 地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向について、「取り組みたい、興味がある」の割合は、『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動』が最も多くなっている。（問11「取り組みたい、興味がある」）</li> <li>● 利用している身近な拠点は、「図書館」と「どこも利用していない」が同率で最も多くなっている。（問12）</li> <li>● 地域の暮らしの中での不安や課題は、「災害時のこと」が最も多くなっている。（問23）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活動・ボランティア活動に今後は「取り組みたい、興味がある」の割合をみると、『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（30.5%）』が全体（23.2%）に比べやや多くなっている。（問13「取り組みたい、興味がある」）</li> </ul>
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本人の就労状況は、「仕事をしていない（45.6%）」が全体（40.2%）に比べやや多くなっている。（問16）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（20.0%）」と「住みやすいと思わない（16.0%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が3割を超えている。（問29）</li> <li>● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実（68.0%）」が最も多くなっている。（問41）</li> </ul>

### (3) 住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、広場や空きスペースにテーブルやベンチを置いて活用することや、空き家の活用、短時間で行ける場所、公園や多摩川等、自然を感じられる場が挙げられた。
- ② 集まってできたらしいこととして、趣味活動、情報交流交換、多世代や親子が交流できる場所のほか、スマホ・料理教室やワークショップ等の学び、飲食できる場、ちょっとした困り事の相談ができる場などが挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、市報や公民館等へのチラシ配架、かかわりのある病院、保育園、自治会等の各組織の活用、口コミ、SNSの活用が挙げられた。

#### (参考) 「アンケート調査結果の特徴」の集計データ

##### ■市民（18歳以上）：住居形態

各項目1位に網掛		持ち家（一戸建て）	持ち家（集合住宅）	民間賃貸（一戸建て）	民間賃貸（集合住宅）	公営住宅（市営・都営住宅等）	社宅・公務員住宅等	上記以外	無回答
全体	(N=815)	45.2	24.9	1.0	20.5	5.3	0.9	1.2	1.1
第一・富士見台・多摩川	(n=117)	29.1	37.6	0.9	19.7	6.8	3.4	0.0	2.6

##### ■市民（18歳以上）：利用している身近な拠点

各項目1位に網掛		文化会館たづくり	地域福祉センター	総合福祉センター	市民活動支援センター	ふれあいの家	公民館	図書館	小学校・中学校	民間の施設	個人宅	その他	どこも利用していない	無回答
全体	(N=815)	19.4	8.1	2.6	1.5	4.3	3.9	29.1	10.3	4.2	6.5	5.6	40.1	4.7
第一・富士見台・多摩川	(n=117)	26.5	5.1	5.1	1.7	2.6	2.6	35.0	11.1	6.0	8.5	4.3	35.0	6.0

■高齢者（65歳以上）：地域活動・ボランティア活動・今後の取組意向

各項目1位に網掛	子育て世帯・青少年を支援する活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
全体 (N=1203)	9.2	14.5	11.1	14.9	17.5	23.2	24.4	16.0	32.3
第一・富士見台・多摩川 (n=174)	12.6	16.1	13.2	13.2	22.4	30.5	27.0	17.8	32.2

■障害者（18歳以上）：本人の就労状況

各項目1位に網掛	正規の社員・職員・役員	非正規の社員・職員（嘱託、パート、アルバイト、契約、派遣）	自由業・自営業（家業手伝いを含む）	障害者施設（作業所など）	仕事をしていたが、現在は	これまで仕事をしたことない（学生を含む）	無回答
全体 (N=981)	16.0	17.0	3.6	12.7	40.2	6.3	4.2
第一・富士見台・多摩川 (n=147)	18.4	13.6	6.1	8.8	45.6	3.4	4.1

■障害児（18歳未満）：調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか

各項目1位に網掛	住みやすいと思う	どちらかといえば、住みやすいと思う	どちらかといえば、住みやすいと思わない	住みやすいと思わない	無回答	『住みやすい』	『住みやすいと思わない』
全体 (N=130)	10.0	66.2	16.2	6.2	1.5	76.2	22.4
第一・富士見台・多摩川 (n=25)	4.0	60.0	20.0	16.0	0.0	64.0	36.0

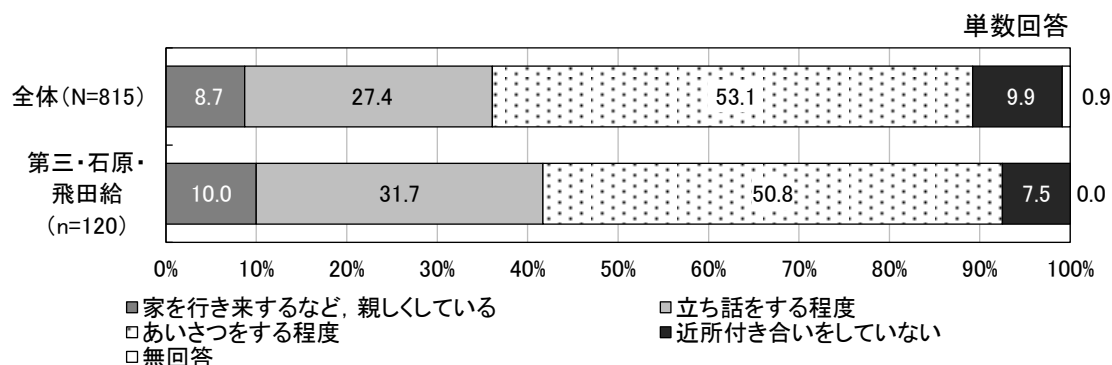
■障害児（18歳未満）：市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組

		困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	手当や医療費の助成などの経済的な支援	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー、コミュニケーション支援など社会参加の支援	一時預かり、ショートステイ	保護者の病気など、緊急時におけるサポート	発達に関する相談や療育の充実	保育園・幼稚園などにおける受入れの推進	特別支援教育の充実	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備	学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備	企業などで働くための支援（就労支援）	趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備	グループホームなど地域における住まいの場の整備	障害理解の促進や差別の解消	アフリ	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	障害に応じた多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	その他	無回答
各項目1位に網掛																								
全 体	(N=130)	61.5	20.0	53.8	38.5	23.8	26.2	36.2	65.4	29.2	53.1	48.5	49.2	43.8	39.2	35.4	37.7	21.5	34.6	22.3	6.2	3.8		
第一・富士見台・多摩川	(n=25)	60.0	12.0	44.0	32.0	12.0	8.0	28.0	68.0	32.0	60.0	48.0	56.0	56.0	36.0	28.0	36.0	20.0	32.0	16.0	8.0	4.0		

## 8 第三・石原・飛田給小学校地域

### (1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：まわりの人から手助けしてほしいこと・手助けできること

各項目1位に網掛	安否確認の声かけ	ちよつと出した買い物	食事や掃除・洗濯の手伝い	手助けの送迎や外出の送り迎え	子どもの預かり	話し相手や相談相手	災害時避難の手助け	具合がよくない時に病院などに連絡する
① 手助けしてほしいか								
全体 (N=815)	51.0	13.6	8.5	15.8	16.0	28.1	70.2	51.9
第三・石原・飛田給 (n=120)	48.3	15.0	10.0	17.5	12.5	26.7	71.7	53.3
② 手助けできること								
全体 (N=815)	76.9	44.2	16.4	26.4	22.5	48.7	76.9	72.1
第三・石原・飛田給 (n=120)	76.7	45.8	10.8	26.7	23.3	48.3	79.2	77.5

■市民（18歳以上）：地域活動・ボランティア活動の取組状況・今後の取組意向

各項目1位に網掛	Aする活動	子育て世代・子どもや青少年をPTA支援する活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	伝統文化を伝える活動	お祭りや運動会などの地域のレクリエーション活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	地域の環境美化、環境保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
①取組状況											
全体 (N=815)	11.5	3.9	3.4	8.6	6.1	6.1	6.6	10.1	19.9		
第三・石原・飛田給 (n=120)	13.3	5.8	4.2	10.8	7.5	5.0	9.2	13.3	22.5		
②今後の取組意向											
全体 (N=815)	15.1	21.2	19.8	24.0	22.5	35.6	31.0	13.3	38.9		
第三・石原・飛田給 (n=120)	14.2	25.8	25.0	26.7	25.0	38.3	37.5	15.8	38.3		

■市民（18歳以上）：地域の暮らしの中での不安や課題

各項目1位に網掛		子育て、 子どもの教育	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	近所付き合いのこと、 友だち	と 防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	（機 関） が少 ない こと	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	(N=815)	14.4	22.9	13.5	32.0	14.5	13.1	19.4	4.9	14.1	30.1	6.1	1.1	25.6	6.5
第三・石原・飛田給	(n=120)	16.7	15.8	10.0	35.8	12.5	6.7	19.2	5.0	15.8	31.7	6.7	0.8	29.2	1.7

(2) アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近所付き合いの状況は、『親密な近所付き合いをしている』（「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」の合計）割合が4割を超える高い数値となっている。（問8）</li> <li>● 手助けを「できる・してもいい」の割合は、『災害時避難の手助け』が最も多くなっている。（問9「できる・してもいい」）</li> <li>● 地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向について、「取り組みたい、興味がある」の割合は、『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動』と『趣味・習いごとなどの活動』が同率で最も多くなっている。（問11「取り組みたい、興味がある」）</li> <li>● 市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化（23.3%）」が全体（16.1%）に比べやや多くなっている。（問33）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」と「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」が同率で最も多くなっている。（問37）</li> </ul>

障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「あまり取り組みたくない（35.3%）」が最も多くなっている。（問13）</li> <li>● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（17.0%）」と「住みやすいと思わない（9.8%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が2割を超えている。（問25）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「機会があれば、取り組んでもよい」「取り組みたいが、できない」（38.9%）が同率で最も多くなっている。（問26）</li> <li>● 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（27.8%）」と「住みやすいと思わない（5.6%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が3割を超えている。（問29）</li> <li>● 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実（77.8%）」が最も多くなっている。（問41）</li> </ul>

### （3）住民懇談会結果の特徴

- ① 集まる・話せる空間・場所として、障害の有無にかかわらず誰もがいつでも集まることができる場、公共施設や店舗の一部開放、河原や畑、公園などの屋外が挙げられた。
- ② 集まってできたらいいこととして、防災に関する訓練やまち歩き、世代や障害の有無を越えて相互理解ができる場、映画や演奏、ダンスなどの好きな活動を行える楽しい場、相談できる場等が挙げられた。
- ③ 知らせる・仲間をふやす方法として、ユニバーサルデザイン等誰もが安心して参加できる場であることを周知することや、口コミ、紙媒体、SNSのほか、友人、地域包括支援センターの職員、民生児童委員等の信頼できる関係性から情報を伝えることが挙げられた。また、そのような場に来てほしい対象として、ひきこもりや子育て中の親、障害者等、外に出る機会が少ない人が挙げられた。

(参考) 「アンケート調査結果の特徴」の集計データ

■市民（18歳以上）：市の保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛	相談体制や情報提供の充実	利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実	子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実	在宅サービスの質と量の確保	施設サービスの質と量の確保	ボランテニア団体やNPOなどの育成・活動支援	市民同士が支え合う仕組みの充実	民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化	市民・関連団体・行政の連携と協働の推進	市民への福祉意識の啓発	その他	無回答
全体 (N=815)	55.1	22.0	36.2	22.6	32.4	7.5	15.3	16.1	10.9	12.1	1.8	4.8
第三・石原・飛田給 (n=120)	50.8	16.7	37.5	25.0	35.8	10.0	13.3	23.3	10.8	9.2	1.7	5.8

■高齢者（65歳以上）：市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛	趣味や生きがいづくり・社会参加への支援	働く機会や場所づくり	介護が必要にならないための健康づくりなどの支援	自立生活のための指導	介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）	介護保険以外の保健福祉サービスの充実（配食サービス・紙おむつの給付など）	ボランテニアや地域活動の充実	ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援	低所得者などへの経済的支援	既存住宅の改修支援	安価な賃貸住宅の供給	段差などがなく利用しやすい公共施設・交通機関の整備	特別養護老人ホームなどの入所施設の整備	利用しやすい成年後見制度	介護者に対する支援	その他	わからない	無回答
全体 (N=1203)	32.8	19.7	43.6	7.8	39.5	24.4	8.9	39.2	23.0	12.5	17.0	23.3	38.7	6.3	28.6	1.0	4.6	7.1
第三・石原・飛田給 (n=182)	30.8	17.0	43.4	5.5	42.3	26.9	4.9	44.5	26.9	17.0	13.2	22.5	44.5	6.6	30.8	1.6	2.2	5.5

■障害者（18歳以上）：地域活動・ボランテニア活動の取組意向

各項目1位に網掛	積極的いきいき取り組み	組んでいきたい取り組み	組んでいだけ、取り	り組んでもよ、取	機会があれば、取	取組みたくないが、	できない	くありません	無回答
全体 (N=981)	1.8	9.5	30.9	20.3	30.6	6.9			
第三・石原・飛田給 (n=153)	2.6	9.2	25.5	20.3	35.3	7.2			



■障害者（18歳以上）：調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちとを感じるか

各項目1位に網掛		住みやすいと思う	ど	ど	住みやすいと思わない	無回答	『住みやすい』	『住みやすいと思わない』
			ちらかといえ	ちらかといえ				
全体	(N=981)	22.3	54.2	12.0	6.4	5.0	76.5	18.4
第三・石原・飛田給	(n=153)	22.9	46.4	17.0	9.8	3.9	69.3	26.8

■障害児（18歳未満）：保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向

各項目1位に網掛		積極的に、取り組んでいき	き	も	取り組みたいが、できない	あまり取り組みたくない	無回答
			きたいだけ、取り組んでい	機会があれば、取り組んで			
全体	(N=130)	3.1	10.0	41.5	20.8	21.5	3.1
第三・石原・飛田給	(n=18)	5.6	0.0	38.9	38.9	16.7	0.0

■障害児（18歳未満）：調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちとを感じるか

各項目1位に網掛		住みやすいと思う	み	み	住みやすいと思わない	無回答	『住みやすい』	『住みやすいと思わない』
			どちらかといえ	どちらかといえ				
全体	(N=130)	10.0	66.2	16.2	6.2	1.5	76.2	22.4
第三・石原・飛田給	(n=18)	22.2	44.4	27.8	5.6	0.0	66.6	33.4

■障害児（18歳未満）：市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組

各項目1位に網掛		を気軽に相談できる窓口	健康づくりや地域での医療サービス	援手や医療費の助成などの経済的な支援	成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援	ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス	ガイドヘルパー、コミュニケーション支援など社会参加の支援	一時預かり、ショートステイ	発達に関する相談や療育の充実	保育園・幼稚園などにおける受入れの推進	特別支援教育の充実	放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備	学校卒業後の日中の活動場所（作業所などの障害者施設）の整備	企業などで働くための支援（就労支援）	趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備	グループホームなど地域における住まいの場の整備	障害理解の促進や差別の解消	アフリ	公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー	障害にに応じた多様な情報提供の充実	災害時の支援体制の整備	その他	無回答
第三・石原・飛田給	(n=18)	50.0	16.7	50.0	50.0	11.1	22.2	38.9	77.8	50.0	50.0	61.1	38.9	44.4	33.3	27.8	22.2	16.7	27.8	27.8	0.0	5.6	

## 第2章 アンケート調査から見えた課題

### 1 調布市民の福祉意識と地域生活について

#### (1) 身近な居場所の充実を図る必要がある

- 地域の暮らしの中で何らかの不安や課題を抱えている割合（「特になし」と無回答を除いた割合）は7割近い。不安の内容は、「老後の生活」、「災害時のこと」、「健康」を挙げている。
- 身近な拠点を利用している割合（「どこも利用していない」と無回答を除く）は5割半ばであり、前回調査から大きな変化はない。利用している身近な拠点は、すべての福祉圏域で「図書館」、「文化会館たづくり」が多い。性別・年齢別では、男性60歳代以下は「どこも利用していない」割合が約5割と多い。

- 住民が気軽に交流したり、困りごとを相談し合えるよう、住民主体の活動拠点として多世代・多様な主体が集うことができる居場所を整備するとともに、新しいつながりの形として、デジタルを活用した居場所づくりに向けた支援を推進していく必要がある。

#### (2) 地域での支え合いの仕組みづくりを推進する必要がある

- 近所付き合いの状況は、「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』割合が、近年、3割～3割半ば程度で推移している。
- 地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件は、「時間や期間にあまりしぼられない」と「身近なところに活動できる場があること」が多い。
- 地域活動・ボランティア活動に参加する場合に重視する点は、「気軽にできること（単発、時間が短いなど）」が最も多い。
- 参加しやすい活動の種類は、「同じ趣味・志向をもつ人達の活動（趣味の同好会・教室・子育てサークルなど）」が最も多い。

- 地域福祉コーディネーターを中心として、地域の支え合いの仕組みづくりを支援するとともに、福祉圏域における住民の主体的な福祉活動を推進するため、地域の担い手となる人材の確保、育成に取り組む必要がある。

### (3) 複雑化・複合化した課題を抱えている世帯や個人を包括的に支援する体制を構築する必要がある

---

- 複雑な課題を抱えた世帯を見聞きした割合（「見たり、聞いたりしたことはない」と無回答を除いた割合）は3割に上り、すべての福祉圏域で「近隣や地域と関わりをもたない世帯（孤立世帯）」、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯（老老介護）」、「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）」などの世帯が存在している。
- 経済的な理由で困ったことがある割合（「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」の合計）は3割弱である。

○ 相談支援機関等の連携を進め、包括的に相談を受け止め、多機関協働による重層的な支援を進めていく必要がある。

### (4) 福祉のまちづくりを推進する必要がある

---

- 市内のバリアフリー化の状況で、『歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路』が『充実していない』（「あまり充実していない」及び「充実していない」の合計）と回答した割合は、7割近くに上る。また、「公園、道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン」が『充実している』（「とても充実している」及び「充実している」の合計）と回答した割合は、1割半ばにとどまっている。
- 心のバリアフリーの普及に向けて必要な取組は、「学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育」が最も多く、「わかりやすい、使いやすい情報の提供」、「多様な背景をもつ人々が交流する機会の増加」が続く。

○ ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを引き続き推進し、誰もが安心して過ごすことができる、人にやさしい福祉のまちづくりを推進する必要がある。

#### (5) 災害時に住民同士で支え合いができる防災対策を推進する必要がある

---

- 災害時についての不安や心配ごとがある割合（「特になし」と無回答を除いた割合）は、8割近くに上る。不安や心配ごとは、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」が最も多くなっている。
- 地域の暮らしの中での不安や課題は、「老後の生活のこと」に次いで「災害時のこと」を挙がっている。
- 市民同士で手助けを「できる・してもいい」の割合は、『安否確認の声かけ』と『災害時避難の手助け』が最も多くなっている。

○ 防災対策については住民の関心が高いことから、日常的な地域の支え合いを通じて、身近な地域での災害時の避難の手助けなど、災害時における避難支援体制の整備を推進する必要がある。

#### (6) 多様性を認め合う意識を育む必要がある

---

- 地域のつながりが重要である、あるいは、社会全体の問題と考えることについて、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、『認知症や老老介護の問題』、『ひとり親家庭の自立支援』、『障害や病気があっても自分らしく暮らす』において8割に上る。一方、『ひきこもりやニートの問題』について『そう思わない』割合が他に比べて多い。
- 心のバリアフリーの普及に向けて必要な取組は、「学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育」が最も多く、「わかりやすい、使いやすい情報の提供」、「多様な背景をもつ人々が交流する機会の増加」が続く。（前ページ（4）の再掲載）

○ 地域共生社会の充実に向けて、多様性を認め合う意識の醸成を図るとともに、様々な理由で困難を抱えている人や困っている人、社会的に孤立している人を支援につなげられるよう、福祉に関する法律・制度や取組を、引き続き周知していく必要がある。

## 2 高齢者の福祉意識と地域生活について

### (1) 健康づくり、介護予防活動を支援する取組が必要である

---

- 「高齢者」を意識する年齢は、「75歳以上」が最も多い。
- 高齢者のフレイル予防の取組意欲は約6割となっている。
- 仕事をする（したい）理由は、「生活費をまかなうため」が最も多く、「健康によいから」、「働くことに生きがいを感じるから」が続く。
- 高齢者が就労する（続ける）ために必要なことは、7割半ばの人が「健康・体力」を挙げている。
- 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が最も多く、「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）」、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」が続いている。

○ 高齢者はフレイル予防に意欲的であり、「健康・体力維持」のために仕事をする意欲を持っている。市の健康づくりや介護予防事業に加えて、あらゆる分野での取組・施策の可能性を検討し、元気高齢者を支援する環境づくりに取り組むことが必要である。

### (2) 多様な主体による見守りと支え合いの輪を広げる取組が必要である

---

- 手助けを「してほしい」の活動は、『災害時避難の手助け』が最も多く、『安否確認の声かけ』、『具合がよくない時に病院などに連絡する』が続く。また、手助けを「できる・してもいい」活動も同じである。
- この1年で家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをした経験のある人は1割半ば、まわりの人に手伝いや手助けをしてもらった経験のある人も1割である。
- ひとり暮らしの人は、災害や火災などの緊急時に「避難を助けてくれるような人がいない」が約4割である。

○ 潜在的な互助意識の高さがうかがえる結果となり、今後は、まわりの人への実際の手助けにつなげていくことが大事になる。今後の更なる高齢化により、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加が見込まれるため、地域特性や地域資源を生かしながら、多様な主体による見守り・支え合いの輪をさらに広げる取組や仕組づくりが必要である。

### (3) 社会参加、趣味・生きがいづくりへの支援が必要である

---

- 現在の地域活動・ボランティア活動の取組状況は、すべての項目で「取り組んでいない」が6割を超えている。
- 今後の地域活動・ボランティア活動への取組に対し、高齢者の3割は意欲を持っていると考えられる。活動として『趣味・習いごとなどの活動』が最も多く、『地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動』、『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動』を挙げている。
- 地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件は、「時間や期間にあまりしばられない」、「身近なところに活動できる場がある」を上位に挙げている。
- 自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごす場所（サードプレイス）のある人は約6割、サードプレイスのない人は3割半ばである。
- 自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごしたい場所は、「飲食店」が最も多く、「公園・自然」、「友人・知人宅」が続く。

- 高齢者の社会参加は、健康寿命の延伸や介護予防の観点からも、ますます重要なテーマとなる。地域資源の活用や参加しやすい条件・環境に配慮する視点を持つとともに、高齢者の居場所（サードプレイス）をきっかけ（入り口）として、社会参加や趣味・生きがいにつなげていく仕掛けが必要となる。

### (4) 介護者の心身の負担を軽くするための環境づくりが必要である

---

- 介護者支援で必要なことは、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり」が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供」、「介護者が仕事を続けることができる支援制度、再就職支援施策」が続いている。
- 調布市の高齢者保健福祉施策に関する制度や相談窓口の認知度は、『地域包括支援センター』は5割を超えているものの、その他の制度や窓口は「知らない」が多くなっている。
- まわりの人に手助けを「できる・してもいい」の割合をみると、『話し相手や相談相手』が4割台となっている。

- 高齢者人口や要支援・要介護認定者数の増加に伴い、今後も介護者数の増加が想定されることから、介護者の心身の負担を軽減するための環境づくり・取組がますます重要となる。支援制度等の周知や相談窓口・相談体制の充実とともに、当事者同士が集える場の拡充や認知症サポーターを始めとした市民による支え合いを生かした取組が必要となる。

#### (5) 高齢者への早い時期からの認知症予防の働きかけが必要である

- 健やかに暮らすための取組として、『認知症予防』は、「取り組んでいないが、今後は取り組む」が3割半ばと最も多く、「今、取り組んでいる」が2割半ばで続いている。
- 『フレイル予防』は、「取り組んでいないが、今後は取り組む」が3割強で最も多く、「今、取り組んでいる」が2割半ばで続いている。
- 認知症の人やその家族を支える重点施策で期待することは、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」が最も多く、「認知症の人が利用できる介護施設の充実」，「家族の身体的・精神的負担を減らす取組」が続いており、いずれの取組も5割を超えている。
- 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が最も多くなっている。

○ 高齢者人口の増加や平均寿命の延伸に比例して認知症高齢者の増加が想定され、今後もますます認知症は重要な課題となる。相談支援体制の充実，早期発見・早期対応や重度化防止の取組のほか，高齢者自身が早い時期から認知症予防を生活の中に取り入れるような働きかけも必要となる。また，認知症があっても住み続けられよう地域の方への認知症に対する啓発や専門職が適切に関わる体制づくりも重要である。

#### (6) 相談窓口の認知度向上とアウトリーチ活動の充実が必要である

- 日常生活で困ったときの身近な相談相手（人・機関）は、「同居の家族」や「別居の家族や親戚」が多くなっている。年代別にみると，85歳以上で「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者」と「かかりつけ医や保健師などの医療関係者」が2割を超えている。
- 現在，どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているかについて，「はい」が1割弱みられる。その困りごとの内容は，「自分・配偶者の健康・病気」，「住まい」，「自分・配偶者の運動機能・体力の変化」など，多岐にわたっている。
- 調布市の高齢者保健福祉施策に関する制度や相談窓口の認知度は，『地域包括支援センター』が5割を超えているものの，その他の制度や窓口は「知らない」が多くなっている。（前ページ（4）の再掲載）

○ 問題の多様化・複雑化だけでなく，新たに生じる課題に対応していくため，相談支援に関わる機関が連携し，適切な相談窓口につなげられるよう，ネットワークを構築することや，各相談窓口の認知度向上やアウトリーチ活動の充実が必要である。

### 3 障害のある方の福祉意識と地域生活について

#### (1) 病気や障害をもちながら在宅で暮らす人のQOL（生活の質）を高める取組が必要になる

---

- 障害者自身が医療機関（歯科を含む）の受診で困っている割合（「特にない」と無回答を除いた割合）をみると、身体障害（64歳以下）と精神障害で4割台、知的障害、難病は3割台、身体障害（65歳以上）が3割近くとなっている。困ることは主に「医療費や交通費の負担が大きい」（身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病）、「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい」（知的障害）である。
- 身体障害（64歳以下）、精神障害、難病の方の半数以上で、「手当や医療費の助成などの経済的な支援」を重要な取組に挙げている。
- 障害児保護者の半数以上（「特にない」と無回答を除いた割合）が医療機関（歯科を含む）の受診で困っている。主なものに「医療費や交通費の負担が大きい」、「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない」を挙げている。
- 障害児保護者は、今後の重要な取組に、「発達に関する相談や療育の充実」を第1位に挙げている。

- 国の社会保障制度の動向も踏まえ、費用面や医療機関の受診のしやすさなど、医療の不安を軽減する対策とともに、デジタル技術の活用も視野に入れながら、病気や障害をもちながら在宅で暮らす人たちのQOL（生活の質）を高める取組を関係機関と検討していく必要がある。

#### (2) 障害児・者が地域で暮らし続けるため、多様な住まいの確保や心身の障害に合わせた地域包括ケア体制の強化が必要である

---

- 障害者自身が希望する暮らし方は、知的障害は「親や兄弟などの家族と一緒に生活する」、それ以外の方は「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する」が最も多くなっている。また、知的障害で「グループホームで生活する」が2割近くとなっている。
- 障害児は、保護者の意向として、将来は「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する」が最も多い。
- 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病で「住みやすいと思う」と「どちらかといえば住みやすいと思う」を合わせた『住みやすい』の割合がそれぞれ7割を超えている。



- 障害児の地域の暮らしの不安や課題は、「同級生や友人・知人との人間関係」，「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない」，「余暇活動（外出，スポーツ，趣味，その他の習いごと・サークル活動など）の機会が少ない」が最も多い。
- 今後は，加齢に伴う障害の重度化・重複化，ひとり暮らし障害者の住まいの確保（不足），支援する側の人材確保（不足）といった課題も予想される。

○ 病気や障害があっても地域で暮らし続けるために，障害の種別や重さに関わらず，希望する住まいの場を確保できる体制や，多分野・多機関の連携，市の取組と地域活動との連動など，縦横のつながりを組み合わせて心身の障害に対応する市全体の地域包括ケア体制の強化が必要である。

### (3) 地域資源を活用し，障害児・者が居場所（サードプレイス），余暇・スポーツ活動の機会を増やす取組が必要である

- 身体障害（64歳以下），難病，障害児は『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）』機会が十分にある一方，コロナ禍の影響もあったと考えられるが，そのほかの機会は十分とはいえない状況である。
- スポーツ活動・運動について，いずれの障害者も3割～5割程度が「月に1，2回程度」以上の運動をしている。スポーツ活動・運動をするために「活動できる場所」や「障害に応じたプログラムの充実や情報提供」を希望している。
- 障害者自身の地域活動への関心（「わからない，関心がない」と無回答を除いた割合）はいずれの障害者も5割近くあり，「同じ趣味・志向をもつ人達の活動（趣味の同好会・教室・子育てサークルなど）」や「同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会，障害者施設や病院でのサークルなど）」への参加意欲もある。
- 地域活動・ボランティア活動に「機会があれば，取り組んでもよい」と考えている障害者も一定の割合で見られる。

○ 病気や障害のある人が，趣味や余暇活動，スポーツ活動，地域での活動などの社会への参加に主体的に取り組めるよう，活動機会の充実や活動場所の充実がますます重要であり，地域資源を活用した「活動場所」を地域の居場所（サードプレイス）とし，そこに多くの人が集まり，交流を生み出す仕掛け（取組）が必要である。

#### (4) 病気や障害への理解を深め、共生社会に向けた気運を高める必要がある

---

- 障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面は、身体障害（64歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮」、知的障害は「まちなかでの人の視線」、精神障害は「仕事や収入」が最も多い。
- 障害児保護者は、市内のバリアフリー化の評価において、「高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮」の『充実していない』割合が4割を超える。
- お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面は、「教育・保育の機会」や「民間の習いごと・教室」が多い。
- ヘルプカード、ヘルプマークは障害者自身の認知度も効果の実感も十分とは言えない状況である。

- 障害者自身や障害児の保護者は、生活の中の様々な場面で障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じている。障害者本人、市民、市、民間、地域と一緒に実践的な取組を進め、ともに生きる社会の充実（『パラハートちょうふ』）に向けた気運を高めていくことが必要である。

#### (5) 障害児・者の家族・介護者を支援するため、多くの分野や地域との連携が必要である

---

- 障害者の主な介護者の不安や困りごとは、「介助・支援をする家族自身の高齢化」、「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」であり、その割合は前回調査から増えている。
- 障害児保護者の介助や支援の不安や困りごとは、「自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい」が最も多く、「適切な介助・支援の方法がわからない」、「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）」が続いている。また、お子さんのきょうだい（兄弟・姉妹）に関する不安や困りごととして、「保護者がきょうだいに十分に接する時間が取れない」と「きょうだいと本人の関係がうまく保てない」がみられる。
- コロナ禍による障害児の暮らしへの影響の「減った」割合は『保護者の休息（レスパイト）の機会』が最も多く、『スポーツ・運動などで体を動かす時間』が続く。

- コロナ禍もあり、介護者自身の年齢、仕事、休息などへの不安が高まっているほか、きょうだい児についても、きょうだいに接する時間や、きょうだいと本人の関係に不安を抱えるなどの課題もみられる。障害児・者と家族を支えるため、福祉、住宅、就労、教育、防犯・防災分野など、多くの分野や地域の見守りとの連携が必要である。

#### (6) 災害時への備えの徹底と、避難が困難な状況の障害者等を支援する体制の強化を図る必要がある

- 防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを「確認している」割合をみると、身体障害（64歳以下）と身体障害（65歳以上）は6割台、難病は7割台となっており、障害児保護者は8割を超えている。
- 一方、「確認していない」割合をみると、知的障害と精神障害が5割前後となっている。
- 緊急時の避難情報の入手先として、身体障害（64歳以下）は「SNS（市の公式アカウントを含む）」、難病は「調布市防災・安全情報メール（22.7%）」が2割台で多くなっている。障害児保護者は「調布市防災・安全情報メール」が5割を超えている。
- 一方、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害は「わからない」が多く、2割を超えている。

- 近年、全国で発生している地震や風水害などに対する防災対策は、普段から備えていることこそ、被害を最小限に食い止めるために最も重要である。そのため、緊急時の避難場所・避難経路・警戒区域などの確認をはじめ、避難情報を入手する手段を確保しておくことなど、福祉サービス事業者や地域活動などを通して周知と徹底を図るとともに、避難が困難な状況の障害者等を支援する体制の強化を図る必要がある。

### 第3章 住民懇談会から見えた課題

#### (1) 住民主体の交流活動の場の構築を支援する必要がある。

- 気軽に集まれる場所・空間として、公民館や児童館といった公共施設のみならず、ショッピングセンター、飲食店やカフェ、寺社仏閣、小中学校や大学など、身近にある様々な場所の活用が挙げられた。
- 駅前広場、公園、広場、駐車場、畑、多摩川の河川敷を活用するなど、建物に限らない、身近な場所や空きスペースを活用するアイデアとともに、オンラインの活用も挙げられた。
- 空間・場所の条件として、気軽な雰囲気があることやインターネットやスマートフォンが使えること、短時間で行けること、高齢者や障害者も利用できるバリアフリーとなっていることなど、誰もが利用できることが重要であることがわかった。

- 住民主体の交流活動の場（サードプレイス）の構築を推進するためには、公共施設に限らず、地域にある様々な場所やスペースを活用することが重要である。そのため、地域住民自身が気軽に利用できる場となるよう、地域住民の主体的な取組として、その視点や、アイデア、自主性を生かすとともに、市や関係機関がコーディネートや支援を行いながら取組を進めていく必要がある。

#### (2) 誰もが活動しやすく、参加しやすい地域の居場所の充実が重要である。

- 集まってできたらいいことは、運動・体操、食事、趣味・娯楽、祭りなどが多く挙げられた。また、まちめぐりや地図作りなどの地域を知る勉強会、認知症や障害者がスタッフとなる食堂・カフェ、スマートフォン教室や料理教室など、多彩なプログラムのアイデアも提示された。
- 地域の居場所に居てほしい人材として、子どもの宿題を見てくれる人、様々なことを相談できる人、話をゆっくり聞いてくれる人、インターネットやICT活用を教えてくれる人などが挙げられた。
- 一方、何もしなくていい場所、一人で楽しめる場所、見ているだけで参加しなくてもいい場所を求める意見もみられた。

- 住民主体の交流活動の場（サードプレイス）においてできたらいいことは、誰もが気楽に楽しめることや多世代の交流につながることに加えて、参加者同士の学び合いや困りごとを解決できる場になることが求められている。また、気軽に参加できるよう、特に何もしなくてもいい雰囲気も重要であることが明らかとなった。そのため、こうした住民のニーズ等を踏まえて、誰もが活動しやすく、参加しやすい地域の居場所の充実に取り組む必要がある。

### (3) 地域の資源の活用をはじめとして、多様な方法で情報を発信する必要がある。

- 住民主体の交流活動の場の情報発信の方法として、広報紙や回覧、掲示板、チラシといった従来の方法に加えて、友人や地域包括支援センターの職員、民生児童委員等の信頼できる人からの口コミで安心感が増すことも挙げられた。
- ラジオ・ケーブルテレビやSNSの活用、小中学校、コンビニといった福祉に特に関心のない人も利用する場所での情報発信のほか、サロンやサークル等のコミュニティから仲間づくりにつなげるアイデアも挙げられた。

- 住民主体の交流活動の場（サードプレイス）やその活動を多くの人に知ってもらうために、地域の資源も活用しながら、多様な方法で情報を発信していくことが必要である。住民がその情報を目にする機会が増えることにより、地域に関心のなかった人が興味を持つことにつながり、また、居場所を自分たちで作るきっかけにつながることを期待される。そのため、多様な方法で情報を発信し、地域の居場所や活動に多くの人に参加することにより、地域交流や地域のつながりの構築が促進されるよう、支援をする必要がある。

